週刊 YEARBOOK

1939
昭和14年

日録20世紀

3|3
平成10年3月3日発行
(毎週1回発行)第2巻第8号
¥560
講談社

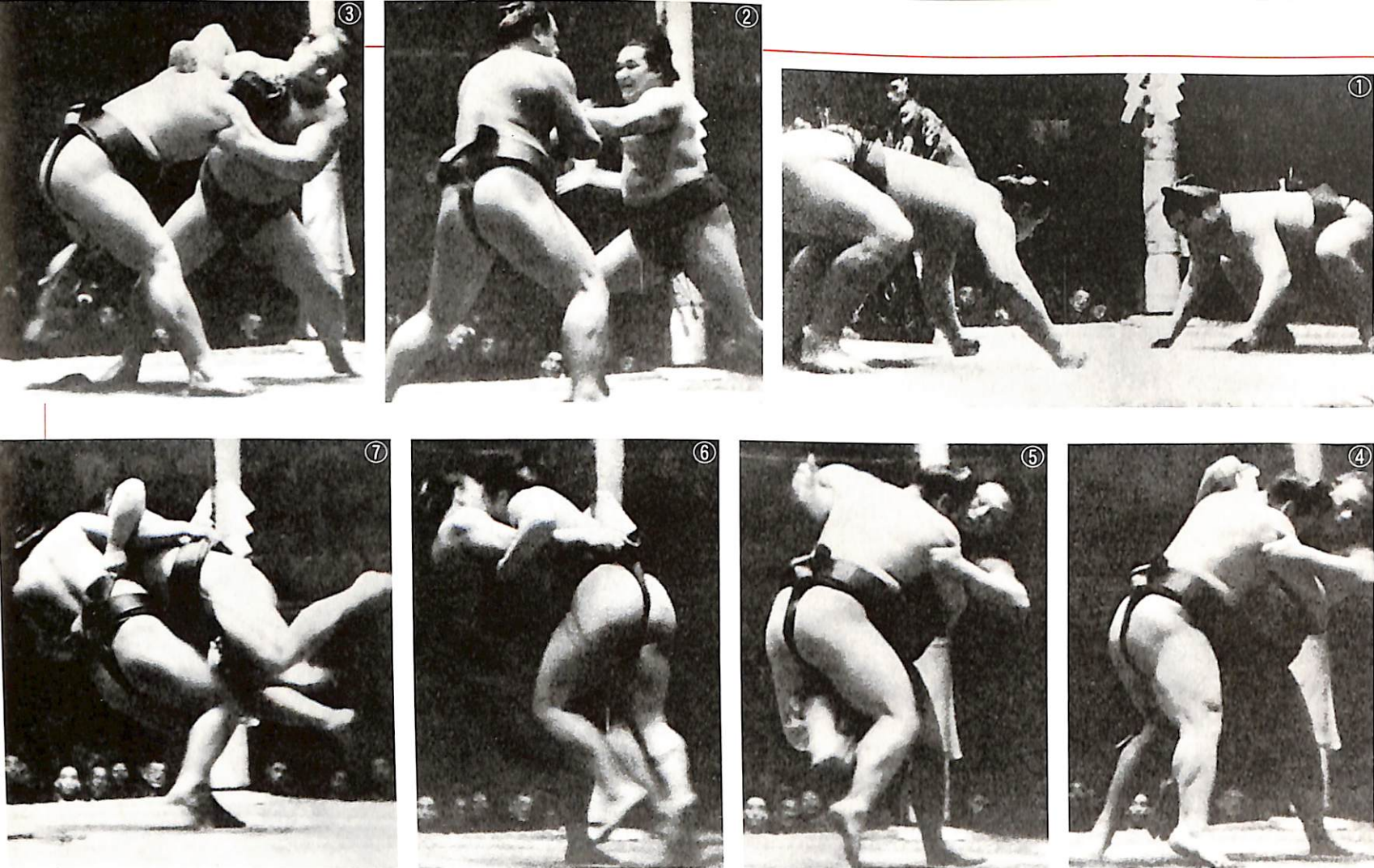
双葉山、70連勝ならず!

関東軍壊滅!「ノモンハン事件」の悲惨と教訓
最高速度533キロ、名機「零戦」誕生!
第2次大戦勃発!"独軍電撃作戦"でポーランド崩壊

「我未だ木鶏に及ばず」
一月一五日午後六時三二分、国技館は大混乱
〝常勝〟双葉山、七〇連勝ならず！

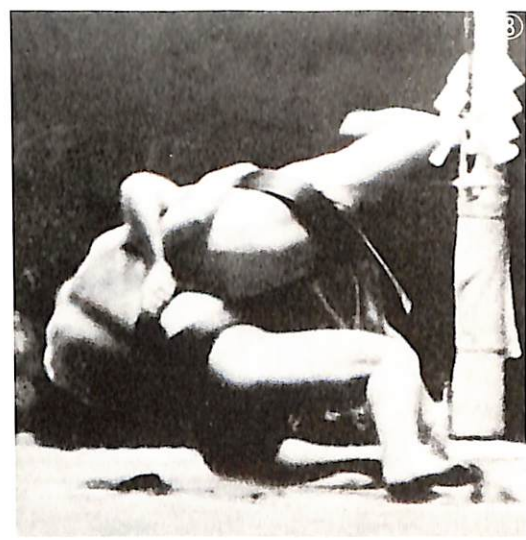
◀双葉（柏）の紋が入った双葉山愛用の化粧まわし。 相撲博物館提供

▲昭和15年の横綱双葉山。ドイツ製特殊カメラで撮影、分解ネガ3枚でカラーに加工。 光村印刷提供

◎表紙　昭和13年1月場所3日目の新横綱双葉山の堂々たる土俵入り。太刀持ちは名寄岩。 相撲博物館提供

▲双葉山が安芸ノ海に敗れた一番。写真は両者の攻防を順を追って撮影したもので、①両者の仕切り。②立ち合い、安芸ノ海、突張って出る。③双葉山、右を差す。安芸ノ海、頭をつける。④双葉山、すくい投げ。⑤安芸ノ海の左外掛け。⑥双葉山、懸命にこらえる。⑦双葉山の体勢崩れる。⑧双葉山ついに敗れる。 朝日新聞社

六九連勝を続けていた横綱双葉山が、昭和一四年一月一五日、安芸ノ海に敗れ、その連勝記録にピリオドを打った。この場所の双葉山は、医師が休場を勧めるほど最悪の体調だった。さらに、横綱は右目の視力が失われていた。こうしたハンディを黙して語らず、克服して常勝「双葉山時代」は作られたのである。

「双葉山敗れる」に絶叫 火鉢まで飛んだ国技館

昭和一四年一月一五日、藪入りの日曜日と重なり、東京・両国国技館は超満員の盛況だった。昭和初期には、閑古鳥の鳴いていた大相撲は、連勝を続ける横綱双葉山（二六）の活躍で、黄金時代を迎えていた。前日の取組中から国技館前には人が並び、連日、徹夜の行列ができた。寒い正月だけに、近所のゴミ箱や板塀が、暖をとる焚き火に〝化けて〟しまうほどの過熱ぶりだったのである。

この日は、一月場所四日目。結び前の一番、双葉山の相手は入幕三場所目、西前頭三枚目の安芸ノ海（二四）である。

当時の横綱の仕切り時間は一〇分間だったが、三分を残して安芸ノ海が突っかけた。待ったをしない主義の双葉山は、当然受けて立つ。安芸ノ海はまず一発ぶちかまし、そして突っ張って出た。その後、安芸ノ海が左上手を浅く引きつけ、頭をつける。双葉山が不利な体勢から、すくい投げを打ったが安芸ノ海もよく残す。再び双葉山がすくい投げに出た一瞬、安芸ノ海の外掛けが飛び、双葉山は土俵に仰向けに倒れた。午後六時三二分——昭和一一年一月場所七日目から、まる三年間におよぶ連勝記録が、ついに六九で終止符を打った瞬間である。

当時の角界では、双葉山が所属する立浪部屋をのぞき、全力士の目標が「打倒双葉」にしぼられていた。特に安芸ノ海の出羽海部屋は、早稲田大出の〝智将〟

▶初対戦で双葉山を破る大金星をあげた安芸ノ海。翌年の五月場所は一四勝一敗の成績で初優勝。

笠置山（二八）を筆頭に、秘策の検討を重ねていた。安芸ノ海はその作戦を忠実に守ったのである。安芸ノ海は、後に三七代横綱となったが、当時は無名に近かった。それだけに衝撃も大きく、館内は座布団や酒瓶、はては手あぶり用の火鉢すら飛びかう大混乱。絶叫、歓声は隅田川をはさんだ対岸にもおよんだ。新聞は号外を発行し、「あ、遂に双葉敗る」と大々的に報じた。その夜は、ショックで、食事が喉を通らない人が大量に出た。戦争に向かう暗い世相の中で、双葉山の連勝は、国民の数少ない希望の灯だったからだ。

入幕前後までの双葉山は、「うっちゃりの双葉」と呼ばれていた。だが、昭和一一年五月場所、新関脇で、それまでどうしても勝てなかった玉錦を破り、一一戦全勝で初優勝した頃から、双葉山は技に開眼したとされる。右四つからの上手投

▲双葉山は昭和14年4月29日、小柴澄子さんと結婚、京橋区木挽町に新居をかまえた。双葉山27歳、澄子夫人は24歳だった。 毎日新聞社

「我未だ木鶏に及ばず」
1月15日午後6時32分、国技館は大混乱
〝常勝〟双葉山、70連勝ならず！

▲昭和14年5月場所の初日、場所入りをする双葉山。後方は同じ立浪部屋の旭川。 相撲博物館提供

げが双葉山の型だった。ラジオでは「右四つになりました。もうおしまいです」と当然のように放送した。双葉山とあたった力士も異口同音に、「羽黒山関の胸が鉄板なら、双葉関はがんがん押していっても、餅に吸いこまれる感じ」と評した。「双葉の相撲には面白味がない」と言われたほどの無敵ぶりだったのである。

立浪部屋の親方の長男で、双葉山に弟のようにかわいがられた髙木友之助中央大学総長は、双葉山が敗れた日の模様を今も鮮明におぼえている。

「よもや負けるとは思いませんから、双葉山が倒れているのを見て、ボーッとしてしまい、どうやって部屋に帰ったかわからない。双葉山が帰ってきても、みんな腫れものにさわるようでした。僕は彼の部屋で『どうしちゃったの？』と聞いたら『負けちゃったよ』と言ってニコッと笑ってましたよ。普段から、相撲は理屈でなく流れだと言っていた人ですから、あの答えは本音でしょう」

そして双葉山は、私淑していた陽明学者の安岡正篤に、「我未だ木鶏に及ばず」という電報を打った。木鶏とは、どんなに相手が仕掛けても、まったく泰然と動じない木彫りの鶏のような存在を言う。自分はそうした悟りの境地に、いまだに達していない、と言うのだった。

右目失明を乗り越え幕内勝率は八割二厘

実はこの場所の双葉山は、大きなハンディを背負っていた。前年夏、双葉山は満州（中国東北部）巡業で患ったアメーバ赤痢の後遺症のため医者も休場を勧めていた。だが、状況が許さなかった。四横綱のうち、玉錦が場所直前に盲腸炎で急死、武蔵山が骨折休場、巨漢の男女ノ川は三五歳という高齢で、場所のメダマが双葉山しかいなかったのである。さらに、それとは別に、双葉山は生涯にわたるハンディを抱えていた。子どもの時から右目が見えなかったのである。双葉山の立ち合いが、常に受けて立つ横綱相撲だったのは、並はずれた技量の持ち主だったことにもよるが、もうひとつの理由は「遠近感がなかったため。それを知っていたのは僕の父母と僕だけで、ほかの力士も知らなかった」（前出・髙木総長）。

安芸ノ海に負けて以来、双葉山は三連敗を喫する。だが、翌五月場所にはみごとに復活し、全勝優勝を飾る。この場所は、初の一五日制の場所だった。双葉山人気のあおりで、興行日数をふやさなければ観客がさばききれなかったのである。

そして、その後も双葉山の活躍は続いた。すでに三〇歳を越え、力士としての峠をすぎていたが、昭和一七年から一八年の二年間は、四連覇をとげている。だが、一八年五月場所の全勝優勝が、双葉山にとって最後の優勝となった。そして、日本の敗戦に殉じるように、昭和二〇年一一月、双葉山は引退し、年寄時津風を襲名。その後、相撲協会理事長として、部屋別総当たり制実現など、大相撲改革にも腕を振るったのである。

生涯成績は二七六勝六八敗一分三三休、その間、優勝一二回、うち全勝優勝は八回、幕内勝率八割二厘、横綱勝率八割八分二厘だった。

「大横綱」双葉山のもうひとつの顔

双葉山は、相撲界には珍しい読書家だった。目が不自由だったにもかかわらず、当時の知識人の愛読していた「中央公論」「改造」「文藝春秋」「実業之世界」といった雑誌を毎月定期購読し、そのほかに単行本にもよく目を通していた。

そして双葉山といえば常に話題になるのは、その宗教への傾倒ぶりである。入門時代から日蓮宗に帰依し、現役横綱当時も、一人姿をくらましては、白装束で滝に打たれていた。

引退直後の双葉山を一躍話題の人に押しあげたのは、昭和22年の璽光尊事件だった。天照大神の啓示を受け、荒廃した日本を再建するとした女性教祖の新興宗教、「璽宇教」に、囲碁界の鬼才、呉清源らとともに、入信していた双葉山は、警官隊の手入れに抵抗し、大乱闘を演じたのである。双葉山と兄弟同然に育てられた中央大学の髙木友之助総長は、「人間の限界まで努力を重ねても思うとおりにはならない、そういう勝負師のどうにもならない心ですがったのが、たまたまあの新興宗教だったのです」とその心情を解説する。

◀澄子夫人と二人の子どもとともに。

朝日新聞社
▲露払いの小島山（前）と太刀持ちの名寄岩を従えて土俵へ。

戦闘3ヵ月で1万7000人以上が犠牲に
関東軍、ソ連の機械化部隊の前に壊滅!
「ノモンハン事件」の悲惨と教訓

▶「ノモンハン事件」は、当初のたんなる国境紛争から、関東軍の対ソ強硬方針により本格的な軍事衝突に発展。写真は7月1日ハルハ河の前線に向け進撃する日本戦車隊。
共同通信社

日本軍が経験した初の本格的近代戦だった「ノモンハン事件」は、ゴビ砂漠の東端にあるホロンバイルという草原地帯で起きた国境紛争が発端だった。関東軍はなぜ、一万七〇〇〇人以上の戦死・戦傷者を出し、一個師団がそっくり壊滅するような無謀な戦いに走ったのか——。

隠れ場所のない草原で「視界すべてが戦闘機」

「日本の兵隊さん、君たちはだまされている。すぐに白旗を上げて降伏しなさい。命は保障する。君たちは完全に包囲され、後方も遮断されている。戦っても一、二日の命です——」

昭和一四年八月二三日、満州（中国東北部）西北部にあるモンゴルと「満州国」の国境、ノモンハン付近で、ソ連軍による日本兵向けの放送が大音量で流れた。

後に太平洋諸島で幾度となく繰り返される光景が、ホロンバイルの大草原に初めて登場したのである。

ソ連軍の機械化部隊とぶつかって、関東軍が初の大敗北を喫する「ノモンハン事件」の発端は、約三ヵ月前の五月一一日、日本側が国境だと主張していたハルハ河をモンゴル軍が越え、「満州国」軍と交戦したのが発端だった。

関東軍は当初、この最初の衝突が、三ヵ月にわたって続く死闘の序章になるとは考えていなかった。五月一五日、関東軍の歩兵第二三師団長・小松原道太郎中将の出動命令を受けた東支隊（東八百蔵中佐指揮の捜索隊と歩兵二個中隊）は、ハエを追っ払うような気やすさで紛争地に駆けつけたのである。

ところが、東支隊はいったんはモンゴル軍を撃退するものの、応援に出動したソ連軍の装甲旅団に包囲攻撃され、二九日には全滅してしまう。

この「第一次ノモンハン事件」の惨敗を皮切りに、関東軍は大本営の慎重論を無視し、七月二日から面子をかけて仕掛けた「第二次ノモンハン事件」でも負け続けた。八月にはソ連軍に制空権を奪われ、昼夜問わない爆撃に、ノロ高地やフイ高地などの要所に陣取っていた部隊と司令部の連絡も、とだえるありさまだったのである。

八月二〇日、ソ連軍は弱体化した関東軍を一気に押し切ろうと全面攻撃を開始した。日本軍を包囲殲滅する作戦をとったソ連軍は、前線後衛の「将軍廟」背後までまわりこみ、猛攻を仕掛けた。

「〝アブ〟（ソ連軍戦闘機）が来たぞ!」

関東軍の若い兵士が叫ぶと、飛行機と戦車に援護されたソ連軍の大部隊がハルハ河の全域から渡河してくる。今まで見たこともない五〇〇機、六〇〇機もの戦闘機群に、思わず兵士が「空が真っ暗で見えません。視界いっぱいが戦闘機です」と叫ぶほどの猛攻だった。

「五日間がんばり通したんですが、最後にあの火炎戦車が出てきたんです。戦車が一列横隊に並ぶんですわ。こちらには何もなく、火炎放射機で重油をかけられなかったものも戦車に踏みつぶされる。踏みつぶされなかったものは焼かれる。ごま粒をまいたような日本軍の死体でしたよ」

ノロ高地を守る第七師団二八連隊にいた高島正雄は『証言私の昭和史』の中でそう振り返っている。

結局、十分すぎるほどの戦力が配置されたソ連軍に、空と陸から攻撃され、八月末には第二三師団のほとんどが壊滅。二九日になって撤退命令が出された時は、戦死七六九六人、戦傷八六四七人、生死不明一〇二一人もの被害者が出ていた。ちなみに、事件について、国内では「かなりやられたらしい」とささやかれていたが、太平洋戦争が終わるまで真相は国民に明らかにされなかった。

関東軍作戦課が独断で悲劇的な作戦を強行!

日ソ両軍の明暗を分けた大きな要因になったのが、両軍の兵力差である。事件当初からソ連は、日本をはるかに上回る兵力——狙撃二個師団、空挺一個旅団、戦車一個旅団、装甲車二個旅団、架橋一

▲関東軍作戦参謀の辻政信少佐。

▶草原にタコ壺陣地を築き、ソ連軍の来襲に備える関東軍。
毎日新聞社

▲「ノモンハン事件」では、戦闘の中心となった関東軍の部隊がほとんど全滅したため、日本側から見た戦闘の実情などは不明な点も多い。写真は「満州軍」捕虜。 毎日新聞社

個大隊など——を前線に送りこんでいた。

これに対し、ソ連が大兵力を展開しないと過信していた関東軍は、歩兵九大隊、火砲七六門、戦車二連隊、高射砲一連隊などを用意しただけで、火砲も日露戦争中に使われた三八式。ソ連軍にあった一五チセン榴弾砲や高射砲、高射機関銃もなく、火力では三分の一にも満たなかった。

さらに事態を深刻にしたのが、関東軍作戦課の独断専行である。中でも作戦参謀の辻政信少佐（三六）は、二年前に始まった日中戦争の泥沼化で「ソ連とまでは戦えない」と判断していた中央を、「北辺の細事は当軍にまかせてもらいたい」のひとことで退けてしまう。軍内随一の強硬派だった彼は、幕僚が独走して上官をひきずる〝下克上〟の気風を象徴するような人物だった。

「関東軍は、『日本の一個師団はソ連軍の三個師団に匹敵する』という神がかり的な信念にとらわれ、戦力比較さえしませんでした。『満州国』の実権を握る独立国家的雰囲気の中で参謀の独断専行を許し、戦略を誤ったのです。関東軍は『満州国』の〝統治機関〟としては優れていても、実戦力の乏しい戦闘機関だったことが、ソ連との近代戦で露呈したとも言えます」（防衛大学校・村井友秀教授）

九月一五日、日ソ間で停戦協定が成立。四ヵ月にわたる戦闘は幕を閉じたが、これも、九月一日にドイツのポーランド侵攻で第二次世界大戦が始まり、ソ連がこの戦闘を終結させたかったからだった。

「ノモンハン事件」では、関東軍の連隊長六人が戦死、六人が自決した。井置栄一中佐の場合は、壊滅寸前に後退したのをとがめられ、小松原中将に自決を強要されている。植田謙吉関東軍司令官、二三師団を率いた小松原中将らは、責任をとって予備役に編入された。

ところが、強烈な強硬論で関東軍をひきずった辻作戦参謀は左遷されたものの、昭和一六年七月に上司である服部卓四郎中佐の引きで関東軍作戦課に復帰。この〝服部—辻コンビ〟は、ノモンハンの教訓を何ひとつ学ぶことなく、ふたたび太平洋戦争の作戦指導の中心になって、敵を知らず己を知らない独りよがりな戦略で、悲劇的な作戦を強行したのである。

「ノモンハン事件」は、まさに、二年後に始まる太平洋戦争の〝ひな型〟だった。

▲5月、軍事衝突後まもなく、日ソ停戦第1次現地交渉が開かれた。 共同通信社

女たちの肖像

各国外交団からも大喝采！三浦環、帰国後初の独唱会で十八番の「蝶々夫人」を熱唱

稲葉真弓

国際的オペラ歌手として知られる三浦環（五五）が、東京・日比谷公会堂で帰国（昭和一〇年）後初の独唱会を開いたのが、この年の一一月一六日のこと。白い服に赤いバラ二輪を挿した彼女は、イタリア、ドイツ、フランス、イギリス、スペイン、ソ連、日本の七ヵ国の外交団やファンの前で、歌曲二十数曲を歌い、最後を十八番のオペラ「蝶々夫人」から「ある晴れた日に」「いとし子よさらば」でしめくくって大喝采をあびた。翌日の新聞は、「各国使臣も仲良く椅子を並べ……音楽に国境なし」と、戦雲迫る中での饗宴の様子を伝えているが、この時、環の不遇な晩年はすでに始まっていたと言ってもいい。

彼女は二二年にわたる欧米生活で「蝶々夫人」を二〇〇〇回上演したことを勲章にしてきたが、昭和一六年、太平洋戦争が始まったことで米海軍士官と日本婦人の恋愛を描いた「蝶々夫人」の上演は禁止。この独唱会は、彼女の戦前の活躍を飾る最終章のひとつとなったのである。

彼女の不遇は、欧米の歌劇界では高名でありながら、日本での評価がいまひとつだった点にもある。原因は、その奔放な性格が反感をかったのである。明治一七年日本最初の公証人、柴田猛甫の一人娘として生まれた彼女は、小学校の時から音楽に目覚め、東京音楽学校に入学。当時は珍しかった英国製の赤い自転車に乗り、エビ茶の袴、編み上げ靴姿で通学し、新聞に「自転車美人」と書き立てられるほどだった。

二〇歳で結婚し、五年後に離婚、これが起因で母校の助教授を辞任、医学博士の三浦政太郎と出奔、再婚した。この結婚は当時スキャンダルとして騒がれたが、結婚後も海外で幾多のロマンスを育み、昭和四年、先に帰国していた夫が病死した時もついに帰らなかった——となれば、とても日本人の常識に合うスケールではない。

彼女の大胆な性格はロンドン・デビューの際にもよく現れていて、イタリア語の「蝶々夫人」を二ヵ月で丸暗記、少しもあがらなかったという。この公演が評判を呼び、彼女は「蝶々夫人の三浦環」として頂点をきわめていくのだが、帰国後は後進の指導につとめ、昭和二一年三月、日比谷公会堂で「ホーム・スイート・ホーム」を歌ったのを最後に、同年五月、癌のため六二歳で死去。死後、遺志によって病理解剖されたが、その喉は、光沢、色彩、形態など少しも衰えがなく、若い人のものと同じだったという。

▲昭和14年11月16日、独唱会での三浦環。

勝者・敗者

第一回桜花賞で〝大穴〟！勝ちタイム二分二秒四で粘るソールレディが制覇

阿部珠樹

皐月賞、ダービー、菊花賞に、牝馬だけの桜花賞、オークスを加えた五つのレースは、英国にならって始められたもので、クラシックレースと呼ばれている。日本のクラシックの歴史は昭和七年のダービーに始まる。ついで昭和一三年には菊花賞とオークスが、そしてこの年、昭和一四年には皐月賞と桜花賞が創設され、クラシックの体系がひとまずでき上がる。

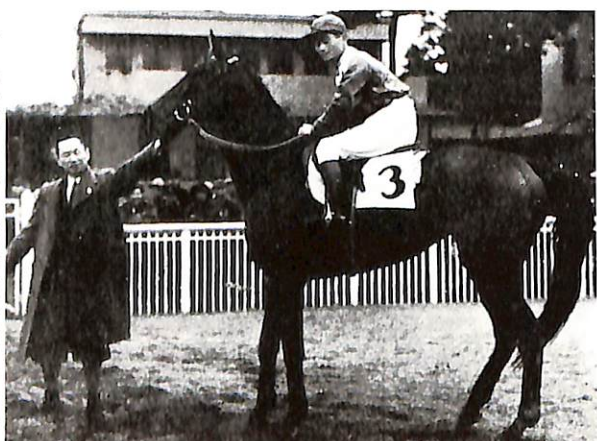
しかし、競馬の根幹をなすクラシックといっても、現在とはだいぶ様子が違っていたようだ。試みに、第一回の桜花賞がどんなレースだったかを見てみよう。

第一回の桜花賞は、「中山四歳牝馬特別」の名称で、昭和一四年四月九日、中山競馬場で行われた。距離は現行より二〇〇メートル長い一八〇〇メートルだった。出走頭数はわずかに六頭。人気は尾形藤吉厩舎、保田隆芳（一九）騎乗のハレルヤに集中していた。

ゲートが開くと、まず、阿部正太郎騎乗のクキンナットが先頭に立った。石毛彦次郎（三四）のソールレディが二番手。人気のハレルヤは、その二頭を見るような形で、三番手を進んで行く。

馬場は「重」の発表で、中には足を取られる馬もいる。頭数が少ないうえに、馬場も悪いので、ペースは上がらず、追いこみ馬には厳しく、先行する馬にはおあつらえ向きの展開である。逃げるクキンナットはマイペースでゴールをめざす。それをぴったりとマークしていたソールレディは、直線に入ると、坂を上がったところで、満を持してクキンナットを捕まえ、先頭に立った。ハレルヤが必死に追いこむが、ソールレディはしぶとい。結局ソールレディが粘り、ハレルヤは二着に敗れてしまった。

ソールレディの単勝払い戻しは公務員の初任給七五円の二倍近い一三〇円五〇銭。大穴だった。勝ちタイムは一八〇〇メートルで二分二秒四。これは今なら二〇〇〇メートルのタイムで、これひとつとっても、いかにのんびりしたレースであったかがよくわかる。

馬の博物館提供

▶ソールレディ。第一回桜花賞の時の写真は残っておらず、この写真は二年後の昭和一六年四月六日、「古呼馬障碍」で優勝した時のもの。

「国際写真情報」/国際フォト

▲**東大「平賀粛学」(1月28日)** 総長・平賀譲が、人事をめぐって対立する経済学部の河合・土方両教授を教授会にはからずに休職処分にして混乱。写真は掲示板を見る学生。

◀**満映の名花、李香蘭(1月1日)**「蜜月快車」で、いきなり主役デビュー。本名・山口淑子(18)。この年「白蘭の歌」が日本でも公開された。写真は満映女優陣と。右端が李。

毎日新聞社

朝日新聞社

▼**松坂屋、北京進出(1月31日)** 商工省が日本百貨店組合に中国進出を要請すると、軍需優先の統制経済で売り上げが激減していた各社は、新しい市場に活路を求めた。写真は、開店した松坂屋北京西単営業所前で記念撮影する従業員。

松坂屋提供

▲**利根運河で浚渫作業(1月)** 明治23年(1890)に開通、利根川と江戸川を結ぶ銚子ー東京間の水運としてさかんだったが、鉄道の発展で衰退。昭和16年からは放水路に(現在の野田導水路)。

▶**早大山岳部、新高山ノボレ(1月1日)** 前年、集団鍛錬をめざして東京を出発、台北を経て17人全員が「日本一」の高峰(現・玉山、3997メートル)の頂点に立った。

朝日新聞社

▲**米太平洋艦隊移動演習(1月13日)** 戦艦・航空母艦を含む大小140隻の大艦隊が、わずか36時間でパナマ運河を抜け、大西洋に進出した。これで同運河の戦略的有効性が実証された。写真は太平洋艦隊主力艦の戦艦「テネシー」(右)と空母「レンジャー」(左奥)。

昭和14年1月

1(日)●中国国民党、日本に協力的な立場に立つ汪兆銘の党籍を剥奪し永久除名。
2(月)●靖国神社をのぞく全国官・国幣神社の一二年度の賽銭総額は三五五万円、と新聞に。
3(火)●米海軍省、太平洋根拠地の増設を議会に勧告。
4(水)●近衛内閣総辞職(5日、平沼騏一郎内閣成立)。
●米大統領、中立法廃止、軍備拡大を表明。
5(木)●第一回全国専門学校サッカー大会。朝鮮の普成専門学校が早大専門部を八対〇で破り優勝。
6(金)●ドイツ、日独伊三国同盟案を正式に提案。
7(土)●国民職業能力申告令公布。特殊技能者を登録。
●太宰府天満宮で火災。祓殿を全焼。
8(日)●靖国神社で戦車大展覧会。百五十余両が行進。
9(月)●馬術五輪代表・遊佐幸平、「満州国」馬政局長に。
10(火)●アルミ節約のため、自転車の番号板を廃止。
11(水)●橿原神宮で、第一回八紘祭挙行。
12(木)●平沼首相、官吏の身分保障撤廃に反対と言明。
13(金)●御前会議で海南島攻略が決定される。
14(土)●市町村の軍援護団体を「銃後奉公会」に統一。
15(日)●双葉山、安芸ノ海に敗れ六九連勝でストップ。
●東京地下鉄の渋谷—新橋間が開通。
16(月)●第四回「女中さん大会」開催。二〇〇〇人参加。
17(火)●タクシーのメーター制実施で採算が取れないため、遠距離客への乗車拒否が続出と新聞に。
18(水)●内務省、各市町村での忠霊塔建設を許可。
19(木)●五相会議、日独伊三国同盟案につき武力行使の援助はソ連だけを対象との条件決定。
20(金)●特許局の代用発明品研究募集に応募四〇〇〇件。
21(土)●米加州下院に日本農民排斥の土地法案提出。
22(日)●日独伊親善図画展覧会、東京府美術館で開催。
23(月)●谷崎潤一郎現代語訳の『源氏物語』刊行開始。
24(火)●「文藝春秋」掲載の座談会「東亜に迫る世界の圧力」の南進論に対し、警視庁が削除命令。
25(水)●初の南洋開拓挺身隊三一人、東京を出発。
●防護団と消防組を統合する警防団令公布。
26(木)●スペイン内戦でフランコ軍がバルセロナ占領。
27(金)●外国産葉タバコの輸入途絶でホープ、チェリーなどを国産葉で製造、と新聞に。
28(土)●平賀譲東大総長、河合栄治郎・土方成美両教授の休職を荒木文相に上申(平賀粛学)。
29(日)●初の東西学生対抗弓道試合開催。東軍が勝利。
30(月)●仏、原産地証明のない日本品の輸入を不許可。
31(火)●商工省、一二年の工場統計発表。前年比で工場数一七%、生産高三四・五%の増加。

ニュース・ファイル
1939

フォト＋日録で再現する365日

日中戦争が泥沼化する中、関東軍がノモンハンで大敗した。そして第二次世界大戦勃発。日本は独伊枢軸への傾斜を一層強める。「総力戦」をにらみ、電力・米・物価・賃金の統制、パーマネント禁止など、経済と生活のあらゆる場面で、国家の強力な介入が始まった。

◀**東京市内を戦車隊が大行進(1月8日)** 代々木練兵場で観兵式を終えた百数十両が、地響きを立てて、銀座をまわり朝日新聞社主催の「戦車大展覧会」開催地、靖国神社へ向かった。写真は日比谷公園前を行く戦車隊。
朝日新聞社

「歴史写真」

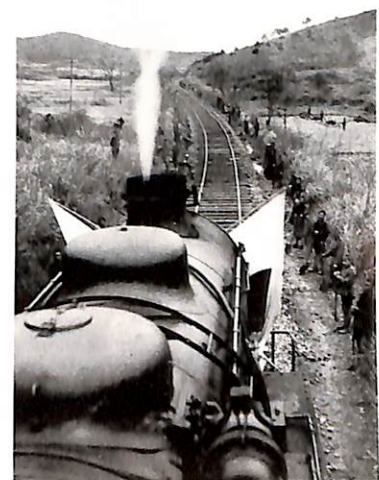
▶「愛国相撲号」と命名(2月4日)大日本相撲協会が、陸軍に戦闘機を献納。双葉山・男女ノ川両横綱が立川飛行場で献納機に向かい、武運長久をこめた土俵入りを行った。

◀日本軍、海南島侵攻(2月10日)「援蔣ルート」遮断のための航空基地作りと天然資源がねらい。英仏は「南進」を警戒した。写真は、軍馬の上陸。連戦で殺ずれが痛々しい。

毎日新聞社

▶阪大に日本一の大風洞(2月10日)航空力学、風害予防などの研究が目的。日本学術振興会が小谷寛之教授に設計を依頼、吹出口直径3.5メートル、最大風速毎秒68メートル。

「国際写真情報」/国際フォト

◀活躍する鉄道部隊(2月)中国・長江中流の九江から南昌へ向かう鉄道が復旧した。武漢三鎮を占領した日本軍は、仏印(現・ベトナム)と中国を結ぶ「援蔣ルート」遮断のため南下しようとしていた。

毎日新聞社

朝日新聞社

▶ドイツ最大の戦艦「ビスマルク」進水(2月14日)海上兵力整備で立ち遅れていたドイツが、ついに3万5000トン、世界の新鋭艦に匹敵する巨艦を誕生させた。写真はキール軍港での進水式。

◀海軍従軍画家展覧会(2月23日)東京・日本橋の高島屋で開催。中村研一・藤田嗣治ら漢口攻略戦などに加わった画家や海軍嘱託として従軍した26人の作品を展示。写真正面の絵は鶴田吾郎作。

昭和14年2月

1(水)●自動車のタイヤ・チューブが配給切符制に。
●内務省、「皇軍の威信をそこなう」として、軍服姿の女優のブロマイドを禁止。
2(木)●「伊六三号」潜水艦、豊後水道で「伊六〇号」潜水艦と衝突し沈没。八一人死亡。
3(金)●主要都市の防空公園造築に学生動員と新聞に。
4(土)●今年の豆まきは「鬼は東亜の外」、と新聞に。
5(日)●「国民精神発揚週間」始まる。
6(月)●「満州国」、共同経営の実験農村設置を決定。
7(火)●前年来献納された拳銃が一万突破、と新聞に。
8(水)●国民精神総動員の趣旨徹底のため文部省が製作依頼した「総動員映画」四本、上映開始。
9(木)●閣議、金属回収などで隣組制度強化を決定。
●ジャン・ギャバン主演「望郷」封切。
10(金)●日本軍、海南島に上陸。
11(土)●双葉山、慣例破り角界と無関係の女性と婚約。
12(日)●中里恒子、『乗合馬車』で女性初の芥川賞決定。
13(月)●古賀政男の日本ジャズ演奏会が米で人気上々と、ロサンゼルス領事から外務省に報告。
●日魯漁業、カムチャツカ漁場での違反操業に関し、対ソ罰金九〇万ルーブルの支払いを拒否。
14(火)●ヘレン・ケラーが「日本侵略主義不援助委員会」の会員になった、と外電。
15(水)●文部省、早稲田大の女子入学許可申請を認可。
16(木)●商工省、街灯など鉄製不急品の回収を開始。
17(金)●徴兵検査前に全員に予備検査と兵務局長表明。
18(土)●セルロイド製のペン先・うつぼ皮の靴など代用品六五件が商品化申請中、と新聞に。
●市川房枝ら、国策協力の婦人時局研究会結成。
19(日)●上海で、「中華民国維新政府」の外交部長・陳籙、抗日派により暗殺される。
20(月)●奉天—東京、天津—福岡で直通有線電話開通。
21(火)●日大と拓大が四月から大陸科を新設と新聞に。
●汪兆銘派の高宗武、和平案携行し長崎到着。
22(水)●拓務省嘱託・本田トヨが、日本人開拓者のため東京に「アマゾン花嫁学校」を開設と新聞に。
23(木)●第一回菊池寛賞に徳田秋声が決定。
24(金)●ハンガリー・「満州国」、日独伊防共協定に加入(3月27日、フランコ政権加入)。
25(土)●スペイン人民戦線政府、抗戦放棄を声明。内戦終結(27日、英・仏がフランコ政権を承認)。
26(日)●靖国神社が見せ物と露店禁止決定、と新聞に。
27(月)●対英作戦含む一四年度陸海軍作戦計画裁可。
28(火)●ベルリンで独政府主催の日本古美術展開催。

小柳次一

◀日本軍、南昌占領(3月27日)前年の漢口攻略後、中国軍の拠点となっていた南昌は、杭州湾へいたる鉄道を持つ交通の要衝だった。写真は、戦火で焼け出された市民。

▲昭和天皇の五女、「清宮」誕生(3月2日)8日、命名の儀が行われた。長じて「おスタちゃん」の愛称で親しまれ、昭和35年、島津久永氏と結婚。天皇闘病の際、国民に病状の経過を肉親として伝える役割を担った。

▼結婚ラッシュ(3月30日)4月1日から遊興飲食税1割課税の新規施行となる、最後の「大安」とあって、結婚式場は大変なにぎわい。写真は、この頃多くなった神前結婚式。花嫁は、簡素な洋髪に貸衣装だった。

▶長谷川一夫、映画法に陳情(3月18日)製作の許可制、事前検閲などを内容とする厳しい文化統制立法に対し、衆院通過を前に映画人を代表して意見を述べた。写真左から二人目が長谷川、右端は木戸幸一内相。

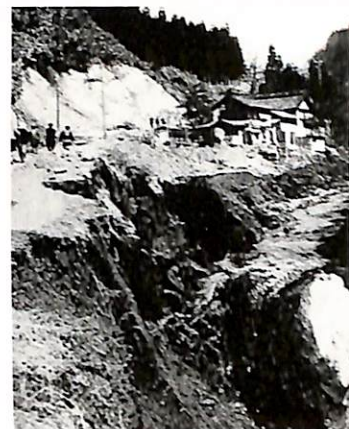
朝日新聞社

▲大阪の枚方陸軍火薬庫爆発(3月1日)砲弾の信管をはずす際に発火、炎は付近一帯を焦がし、軍発表では死者94人、重軽傷者602人を出した。写真は、京阪国道を逃げる住民。

影山光洋

◀ローマ教皇ピウス12世戴冠式(3月13日)ローマのサン・ピエトロ寺院に、世界四十余ヵ国から信徒が集まった。新教皇は元駐独大使。対独政教条約締結に活躍、前教皇とともにナチス圧制と戦った。

昭和14年3月

1(水)●大阪府枚方の陸軍火薬庫が爆発。九四人死亡。
2(木)●厚生省、金歯の代用にパラジウム奨励と示達。
●次年度の陸海軍軍事費は六四億円で予算の七割、と新聞に。
3(金)●ジョン・フォード監督「駅馬車」、米で封切。
4(土)●日本学生庭球連盟関東支部、ゴム配給制限によるボール払底でリーグ戦など中止を決定。
5(日)●米穀商連盟、三〇県で配給統制反対集会開催。
6(月)●愛国婦人会、皇后誕生日に婦人報国祭を開催。
7(火)●歌舞伎座で「父よあなたは強かった」試写会。
8(水)●英、中国への一〇〇〇万ポンド借款協定に調印。
9(木)●兵役法改正公布。補充兵役期間延長と短期現役制廃止など。
●大蔵省、解散する大同電力の退職金六〇〇万円の一部を国債で支給するよう要求。
10(金)●陸軍記念日で、陸軍の新自動車三〇台が行進。
11(土)●深夜まで働く東京市民の足確保のため、各派議員が鉄道省に終夜運転実施を陳情。
12(日)●蔣介石、対日抗戦の貫徹・強化を呼びかけ。
13(月)●内務省が『国民防空読本』を製作、と新聞に。
14(火)●南米で柔道人気、外務省に師範派遣依頼入る。
15(水)●内務省、全国の招魂社を護国神社と改称。
●独、チェコのボヘミア・モラビアを占領。
16(木)●衆院委員会、国際電気通信への天下りを禁止。
17(金)●家庭事件の調停制度定めた人事調停法公布。
18(土)●プロレタリア漫画家・岩松淳夫妻、米へ亡命。
19(日)●船舶数増加で商船学校は定員を倍増と新聞に。
20(月)●第一一軍、南昌作戦を開始(27日占領)。
●警視庁、仮装禁止など花見取締り要項を通達。
21(火)●独、ポーランドにダンチヒの割譲を要求(26日、ポーランド拒否)。
22(水)●四月から小学校で武道を準正課に、と新聞に。
23(木)●上野公園で靴振興展。鮫皮や馬革の「国策靴」。
24(金)●松岡洋右、満鉄総裁を辞任。後任に大村卓一。
25(土)●文部省、全国の学校に防護団組織と通牒。
26(日)●藤原歌劇団、「カルメン」で歌舞伎座初出演。
27(月)●日本放送協会、有線テレビの実験放送を公開。
28(火)●五相会議、大島駐独・白鳥駐伊大使が三国同盟交渉の政府訓令に不服従なら召喚と決定。
29(水)●東方会会長・中野正剛、国民運動に専念するためとして衆議院議員を辞職。
30(木)●文部省、大学での軍事教練を必修と通達。
●砂糖・清酒・ビールなどの公定価格決定。
31(金)●政府、南沙群島の台湾総督府管轄を仏に通告。

朝日新聞社

▲農業用溜池が決潰、19人死亡(4月15日)午後8時半頃、長野市郊外・芋井村の論電池が、雪解けの増水に耐えきれず突然決潰し、鉄砲水となって下流の浅川村と若槻村を襲った。

▼伊軍、アルバニア占領(4月7日)首都チラナの外港、ドゥラス(写真)などに上陸、たちまち全土を掌握した。12日には伊王エマヌエレ3世が王位を兼帯、バルカンは一触即発となった。

「国際写真新聞」

ユニフォト・プレス

▲ニューヨーク万博開幕(4月30日)テーマは「明日の世界」。高さ220メートルの塔や直径60メートルの巨大な球など未来を象徴する建物、デュポン社が開発したナイロンなど先端技術が目白押し。ほぼ同時期に、サンフランシスコでも開催。

毎日新聞社

▲三菱双発型輸送機、イランへ(4月9日)海軍九六式陸上攻撃機の改造型で、新設の大日本航空がイラン皇太子の結婚を祝い、往復1万2000キロを47時間余で飛んだ。

▶宝塚少女歌劇団、米国公演へ(4月6日)ニューヨーク万博会場、サンフランシスコのオペラハウスなどで公演し、7月に帰国。写真は往路の「鎌倉丸」船上で稽古する団員。

朝日新聞社

毎日新聞社

▲英、戦争準備に踏み切る(4月18日)ロンドンの街頭に、「志願兵募集」のポスターが貼り出された。4月25日には空前の軍事予算が提案され、27日には選抜徴兵制導入も決定された。

昭和14年4月

1(土)●日本発送電㈱、設立。電気事業の国家管理がスタート。
●名古屋帝国大学、創立。総長・渋沢元治。
●堀越二郎設計の零式艦上戦闘機、試験飛行。
2(日)●駐伊大使、伊外相に対英仏戦にも日本参戦と言明(3日、駐独大使も独外相に参戦言明)。
3(月)●日本製鉄従業員組合、産業報国会を結成。
4(火)●内務省、金装飾品全廃運動を指示。
5(水)●映画法公布。脚本事前検閲・洋画制限など。
6(木)●職員健康保険法・船員保険法、公布。
7(金)●伊、アルバニアに侵入(12日併合)。
8(土)●宗教団体法公布。宗教活動を国家が統制。
●ニューヨークで天気予報の電話サービス開始。
9(日)●天津英租界で親日派の天津海関監督、程錫庚、暗殺(6月14日、日本軍、英仏租界を封鎖)。
●初の就職列車、秋田県から上野駅に到着。
10(月)●中央卸売市場、仲買人と小売商との相対取り引きを廃止。かけひきなしの値段表示を採用。
11(火)●政府、低物価政策推進のため、総動員法の価格条項発動を検討。
12(水)●米穀配給統制法公布。米穀商許可制など。
13(木)●長塚節原作・内田吐夢監督「土」封切。
14(金)●政府、給料天引きによる強制貯蓄開始を決定。
15(土)●「洋装シルエット」(婦人画報社)創刊。
16(日)●第一軍、中国・山西省東北部の共産軍を攻撃する「五台作戦」を開始(〜7月4日)。
17(月)●華北交通設立(30日、華中鉄道設立)。
18(火)●厚生省、小学生の八割に虫歯があるとして、学校への歯科診療所設置運動推進など協議。
19(水)●鋼材統制でビル建たずオフィス不足の丸ノ内に警視庁が三〇坪以上のバラック建築を許可。
20(木)●宝塚少女歌劇団の「振袖使節」、米に到着。
21(金)●女学校卒の就職好調、事務員が大半と新聞に。
22(土)●学術研究会議、各大学の助手不足解消のため学卒使用制限令の緩和を政府に建議と決定。
23(日)●靖国神社に新たに一万三八九九人が合祀される。
24(月)●警視庁、徳富蘆花『自然と人生』に削除命令。
25(火)●関東軍、「満ソ国境紛争処理要綱」を示達。
26(水)●満一二歳以上の不就学男子に青年学校義務化。
27(木)●日本薬局方調査会、代用薬品答申案を決定。
28(金)●第一回各省連絡廃品回収協議会、開催。
29(土)●サンフランシスコ万博でニッポン・デー開催。
30(日)●政友会革新派、中島知久平を総裁に選出(5月20日、正統派は久原房之助。政友会分裂)。

証言・あの日この日

小津安二郎(35)

1月30日(月) 〈漢口につく。二ヵ月程漢口に滞在して、何となく交替になるものと思っていたのが、これから南昌攻撃だという。一町程先の佐野の宿舎に会いに行く。酒、酒、酒〉(都築政昭編『小津安二郎日記』)

映画監督・小津安二郎が召集令状を受け取ったのは35歳の時だった。友人たちへ「一寸戦争に行って来ます」というはがきを残して中国へ。南京攻撃、徐州会戦、漢口戦、南昌戦などに参加、死闘を繰り返す。そのたびに国内では戦勝祝賀の提灯行列が続いた。しかしこの日記を書いていた頃の小津は、兵隊生活も1年がすぎ、そろそろ帰国できるのでは……とひそかに期待し始めていた頃だった。が、期待は裏切られ、再び出撃の命令が下る。死の不安が胸をよぎる。酒で憂さを晴らすほかはなかった。佐野とは俳優・佐野周二のこと。(山崎行太郎)

朝日新聞社

▲戦時の集団就職(4月8日)小学校高等科を卒業した少年少女約800名が、秋田・福島から東京に向かい、9日、中島飛行機などの軍需工場に就職した。産業界は軍拡とともに人材が払底、彼らは貴重な「産業戦士」となった。

◀照国(21)、丙種合格(5月31日)新入幕の五月場所、11勝4敗の好成績を上げ将来が嘱望されていたが、体重134キロの立派な体格が災いした。丙種は身体検査の結果、現役には適しないが国民兵役に適すると判断されたもの。

▼斎藤博前駐米大使の遺骨、米が礼送(4月17日)巡洋艦「アストリア」で、横浜に到着。病没するまで、20年間米国にあって日米外交につくした努力に、米政府は特に軍艦を派遣して報いた。

◀大日本セルロイド東京工場爆発(5月9日)轟音とともに火柱が上がり、板橋区志村の火薬工場を含む8工場などに延焼。死者30人、重軽傷者200人以上という惨事となった。原因は、出入りの運転手のタバコの不始末だった。

毎日新聞社

「国際写真新聞」

◀独伊軍事同盟調印(5月22日)これでベルリン・ローマ枢軸が完成、紛争に共同で戦うことが約束された。写真はベルリンの総統官邸での調印式。椅子席左からチアノ伊外相、ヒトラー、リッベントロップ独外相。

昭和14年5月

1(月)●男鹿半島で地震。二八人死亡、五六五戸全壊。
2(火)●東京府の満州農業開拓民第一回合同結婚式。
3(水)●日本海軍機、重慶に大規模空襲(〜4日)。
●日産自動車全従業員、サボタージュに突入。
4(木)●極東空路調査の独ルフトハンザ機が羽田着。
5(金)●東京府国民精神総動員実行部、金製品買い上げ運動を開始。
6(土)●小麦粉代用と称して石粉を売った商人ら検挙。
7(日)●薄給のため東京で警官の転職者増加と新聞に。
8(月)●長谷川如是閑ら、国民学術協会設立。自由な民間アカデミーを構想。
9(火)●朝日海上火災保険、「子宝手当」規定を発表。第四子から月額五円の手当を支給。
10(水)●陸軍燃料廠、設立。
11(木)●「満州国」・モンゴル国境のノモンハンで軍事衝突(ノモンハン事件)。
●大相撲五月場所初日。この場所から一三日制が一五日制となり、新設の映画部も活動開始。
12(金)●関門国道トンネル、起工式(昭和33年開通)。
13(土)●日本放送協会、無線テレビ放送実験を開始。
14(日)●日本庭球協会、出場選手の海軍入りでデ杯参加取り消しを決定。
15(月)●軍医養成のため各帝大医学部・官立医大に臨時付属医学専門部を設置。
16(火)●軍需景気で絵画高騰し偽作が横行、と新聞に。
17(水)●ベルリンで日独伊の文化提携雑誌「ベルリン・ローマ・東京」刊行。
18(木)●拓務省、全国各府県で移民の花嫁を養成する女子拓務講習会を開催と決定。
19(金)●パリ音楽院留学中のバイオリニスト・諏訪根自子、ショパン楽堂で初演奏会。
20(土)●郵船の豪華船「新田丸」進水(後の空母「冲鷹」)。
21(日)●福島県翁島村の生家隣に野口英世記念館落成。
22(月)●独伊軍事同盟調印、独伊枢軸が完成。
23(火)●室蘭・盛岡・宇部など七高等工業学校を新設。
24(水)●江戸の火消し再現する第一回記念纏祭、開催。
25(木)●タバコの銀紙をパラフィン紙に、と新聞に。
26(金)●失明軍人用に独から購入の盲導犬、神戸着。
27(土)●第一回海軍軍人対全日本学生対抗相撲大会。
28(日)●ノモンハンで戦闘本格化(29日、東支隊全滅)。
29(月)●大本営陸軍部、日中戦争について、「日本全土の二倍半弱を占領、約六万人が戦死」と発表。
30(火)●富山市の本願寺富山別院で火災。本堂焼失。
31(水)●汪兆銘、来日(6月10日、平沼首相らと会談)。

共同通信社

毎日新聞社

▲元気な照宮（6月）昭和天皇の第1皇女で、後の東久邇成子さん。この年、学習院女子中等科2年生。写真は運動会に出場して優勝した時のもの。昭和35年、35歳の若さで亡くなった。

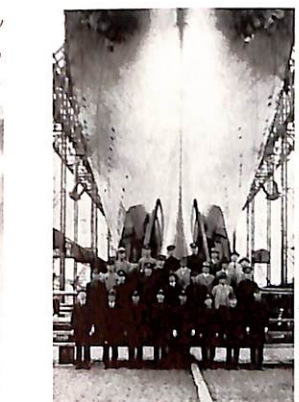
共同通信社

◀日本軍、汕頭を占領（6月27日）「援蔣ルート」遮断のため、海南島、南昌に続き、不拡大方針を棚上げにして進撃。汕頭は南海にのぞむ貿易港で、華南の要港だった。

▲日本、天津英仏租界を封鎖（6月14日）租界内の抗日テロリスト引き渡しを拒まれた報復と英国の対日意識転換がねらい。米国を刺激、日米通商条約廃棄をもたらした。

▼大西洋定期郵便飛行スタート（6月24日）パンアメリカン航空の「ヤンキー・クリッパー号」が、ニューヨークから英サザンプトンに向かった。機内には12万通以上の手紙が積まれていた。

▼空母「翔鶴」進水（6月1日）日本海軍を代表する航空母艦として、昭和19年6月に沈没するまで、ほとんどの期間を第一線で活躍した。排水量2万9800トン、飛行機84機を搭載。

呉市企画部海事博物館推進室提供

▼英国王ジョージ6世、米国訪問（6月9日）滞在中、ルーズベルト大統領と会談、対独戦援助の約束を得た。写真は王妃エリザベスとナイアガラの滝を見物する王。

CORBIS-BETTMANN／PPS

CORBIS-BETTMANN／PPS

昭和14年6月

1（木）●空母「翔鶴」、横須賀海軍工廠で進水。

2（金）●楽団「プロメテ」第一回発表演奏会、開催。

3（土）●東京・銀座に「一万円で身体を売ろう」との口上書を下げた青年が現れ、築地署が検束。

4（日）●高知県北川村で山火事消火に向かう森林列車が谷に転落。一四人死亡。

5（月）●東京音楽学校校長、紅粉・白粉厳禁と訓話。

6（火）●五相会議、中国に汪兆銘を中心とする新中央政権を樹立する方針を決定。
●木炭車による箱根越え試験が成功、と新聞に。

7（水）●満蒙開拓青少年義勇軍二五〇〇人の壮行会。

8（木）●法隆寺壁画保存委員会が発足（翌年から壁画の模写を開始）。
●秋田県小出村で掘削中の油井から原油噴出。

9（金）●大蔵省、給料からの貯蓄率引き上げを通牒。

10（土）●警視庁、待合・料理店などの午前零時以降の営業を禁止。

11（日）●秋田から五〇戸が満州漁業移民、と新聞に。

12（月）●国民党軍、共産党系の「新四軍」を攻撃し幹部を虐殺（平江事件）。国共合作に亀裂。

13（火）●米国の金準備が世界の六割を占めると判明。

14（水）●日本軍、天津の英仏租界を封鎖。

15（木）●映画「紫式部」、検閲で「時局を認識しない場面がある」とされ、四割をカットして封切。

16（金）●国民精神総動員委員会、ネオン・パーマ・学生の長髪禁止など生活刷新案を決定。

17（土）●藤原工業大学創立（19年、慶大工学部に）。

18（日）●日米学生会議の日本代表に男女四八人選出。

19（月）●農村更生協会、稗料理の宣伝晩餐会を開催。

20（火）●東京で奥多摩などの納涼花火が自粛と決定。

21（水）●明石順三主宰のキリスト教団体・灯台社、兵役拒否により弾圧され、百三十余人検挙。

22（木）●大蔵省、管下全国三万の吏・雇員に断髪を通牒。

23（金）●東京市の八〇〇のパーマ業者が自粛大会開催。

24（土）●シャム、国名をタイと改称。
●捕鯨母船「極洋丸」、帰港。船団捕獲一〇〇〇頭。

25（日）●中国国民政府、ソ連と通商条約締結と発表。

26（月）●金銀集中運動強化のため、日銀店頭での鑑定による金即時買い上げ実施。

27（火）●関東軍、独断でモンゴル領内タムスクを爆撃。

28（水）●中央協和会設立。在日朝鮮人の戦時統制組織。

29（木）●誇大広告で法外な授業料取る語学学校などの増加で文部省が各種学校認可は慎重にと通牒。

30（金）●日本と華北を結ぶ有線電話の開通式、挙行。

「現場」を歩く

渋谷

地下鉄銀座線浅草―渋谷直結から六〇年後のターミナル〟盛衰〟記

山本徹美

▲1日平均約21万人の乗客でにぎわう銀座線渋谷駅ホーム。地下鉄なのに改札口・ホームは3階にある。 但馬一憲

昭和一四年九月一六日、東京の渋谷と浅草を結ぶ地下鉄銀座線が直結した。すでに渋谷―新橋間と新橋―浅草間はそれぞれ開通していた。が、二つの地下鉄線は経営母体が異なり、中継点となる新橋駅での相互乗り入れを拒否、連絡を断っていた。地下通路もない。乗客は、いったん地上に出て切符を買い、また地下へと不便を強いられていた。その壁がようやく壊され、電車も乗客も地下で合流、相互乗り入れが実現したのである。

わが国で最初に地下鉄路線が開通したのは、昭和二年、上野―浅草間の二・二キロで、ヨーロッパの地下鉄事情を視察した早川徳次が設立した東京地下鉄道㈱による。この時点でロンドンに遅れをとることなんと六四年。昭和九年、同社は路線を新橋まで延長。

一方、東京地下鉄道の工事を担当した大倉組の門野重九郎は東京高速鉄道㈱を設立、常務に五島慶太（東急電鉄）を迎え、一四年一月、渋谷―新橋間を開通させた。早川と五島の確執が銀座線の開通を遅らせていたのである。

当時、渋谷は東横線、玉川線、帝都線の起点で山手線と連絡していたが、都心へのアクセスが悪かった。東京西南部の住民にしてみればこの銀座線の開通によって、ようやくその不便が緩和された。

開業当初、渋谷―浅草間の総延長は一四・三キロ。車両（一〇〇型）は合計三〇台。銀座線渋谷駅の一日平均乗客数は全一八駅中トップで二万九〇一二人、浅草駅は五位で、一万九八八一人だった。

渋谷と浅草のその後

銀座線渋谷駅へ行ってみた。開設当時と変わらず東急ビルの三階に改札口がある。「地下鉄走って七〇年」というポスターがいたるところに貼ってあった。平成八年度の一日平均乗客数は二一万四七〇三人と、ざっと一〇倍増である。それに対して、銀座線浅草駅の乗客数は一〇万七六二二人。

「営団地下鉄線の駅総数は一五七。乗客数ランクは渋谷駅が七位、浅草駅は二六位です」（営団地下鉄広報課）

乗客数が示すように、渋谷は通勤客や若者でごったがえし、喧噪に満ちている。反面、かつては買い物客でにぎわい、芸能活動もさかんだった浅草は、隅田川の花火大会でもないかぎり混雑はしない。

同じ銀座線のターミナルでありながら、ずいぶん駅と町の様相に差が出たものである。その原因のひとつには、やはり足の便があるだろう。渋谷はJR二本と私鉄三本、地下鉄二本に首都高速道路まで集結している。それに対して浅草は私鉄が二本と都営地下鉄一本がつながっているだけで、高速道路も避けて通ると言われた。もっとも、おかげで東京では数少ない江戸情緒を残す「観光地」となった。隅田川の屋形船は、どこも一年先まで予約いっぱいの状態だそうである。

大正出版提供

▲昭和13年5月29日に撮影された渋谷駅周辺の景観。写真右手に東京高速鉄道の車両が見える。

ベストセラー
原稿用紙三三九一枚の大作 谷崎『源氏物語』スタート！

戦時体制下のこの年、大きな話題を呼んだ本に、谷崎潤一郎の現代語訳『源氏物語』がある。最終的には全部で二六巻におよぶ大作となったが、原作の〝文学的香気〟をそこなわずに現代文に書き直したこの労作に対する評価は、すでに発売前から高く、一月の第一巻配本を前に予約注文が殺到していた。

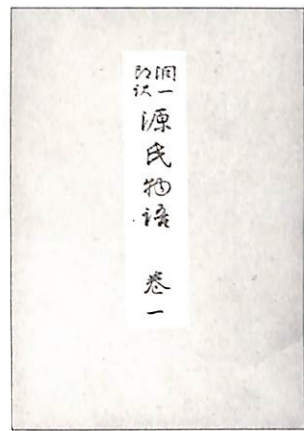
谷崎潤一郎自身の序文によると、昭和一〇年九月から筆をとり、昭和一三年九月に第一稿を書き終えたという。まる三年にわたって〝源氏に起き、源氏に寝る〟仕事ぶりで、その成果は三三九一枚の原稿用紙に結実した。しかも、全巻刊行までの一年余になお推敲を重ねるばかりか、生涯にわたって推敲していこうと心に決めた、文字どおりのライフワークだったのである。なお、装丁は長野草風で、全ページに薄い色の地模様を入れるという、いかにも贅沢で美しい本となった。題字と扉の絵は尾上柴舟でさらに色を添えていた。

谷崎潤一郎はこのライフワークを一応は完成させたが、完成どころか、第一部で筆が絶たれたライフワークもあった。本庄陸男の『石狩川』で、著者自身は、石狩平野の開拓史（興亡史）を連綿と書き継ぐ意志を持っていたが、五月刊行直後の七月に病没、残念ながらその意志を貫くことができなかったのである。しかし、維新の激動を背景にしての開拓史には、大きな時代の転換期におけるさまざまな人間像がリアルに描かれており、この時代ならではの傑作となり、高く評価された。

さらにこの年一〇月、埴谷雄高らの同人誌「構想」が創刊された。創刊号に名を連ねたのは、埴谷のほか、高橋幸雄、久保田正文、山室静たちで、編集・発行人は木村隆一だった。埴谷雄高は左翼活動による投獄を経ての参加であり、当局から監視の目が注がれる同人誌だった。この創刊号に埴谷雄高は、埴谷独特のアフォリズム（後に『不合理ゆえに吾信ず』と題されて刊行された）を発表している。

▼『石狩川』（大観堂、1円30銭）

日本近代文学館提供

▼『構想』創刊号（発売・赤塚書房、三〇銭）

▲『源氏物語』（全26巻、中央公論社、各1円）

スターと名場面
国際世論をも意識した戦争映画「上海陸戦隊」

戦時体制はエンターテインメントの世界にも濃厚な影を落とし始めた。映画「上海陸戦隊」（熊谷久虎監督）はその事実を雄弁にものがたる作品だった。昭和一二年の日中戦争勃発期、上海において、援軍が到着するまでを少人数で支えきった海軍陸戦隊の戦いぶりが、ドキュメントタッチで描かれている。激しい市街戦の様子が、銃声や爆裂音とともにリアルに伝えられた。と同時に、中国軍の攻撃が激烈になってきて初めて発砲するにいたる経緯を細かく描いたり、避難した中国の女性たちに〝日本の兵隊さんはいい人〟と言わせるなど、国際世論をも意識した戦争〝宣伝〟映画になっていた。

同じ年、溝口健二監督は、花柳章太郎主演で、歌舞伎役者の芸と恋の悩みを描いた「残菊物語」を撮った。戦時体制には似合わない映画のようにも見えるが、伝統芸能である歌舞伎をテーマにしていたので、時代にふさわしい作品という見方もされたのである。

洋画では、アルジェリアの首都・アルジェのカスバを舞台にした「望郷」が評判を呼んだ。ジャン・ギャバン扮する悪漢ペペ・ル・モコが、迷宮のように入り組んだカスバで、世界中から流れこんで来たさまざまな人たちに見守られることで警察の追及をかわしながら、恋に身を焼くという、洒落た映画だった。

マツダ映画社提供

▲「上海陸戦隊」で、日本兵に反抗的な中国人娘役を熱演した原節子。

川喜多記念映画文化財団提供

▲「望郷」で悪漢ペペ・ル・モコを演じて人気を高めたジャン・ギャバン（右）と恋人役のミレーユ・バラン。

マツダ映画社提供

▲「残菊物語」で主役の尾上菊之助を演じた花柳章太郎（右）。左は花岡菊子。

モノ語り'39
「セイコーシャプレッション」「満蒙絵はがき」「家族合わせ」腕時計にゲームに、〝戦争のにおい〟が！

▲限りなくバターに近いマーガリン　〝天然バター50パーセント含有、価格はバターの半額、栄養価値はバターの80パーセント〟というコピーで9月から売り出された「雪印マーガリン」が好評で、翌年には2倍以上の増産を実施するほどだった。天然バターを少量しか入れない粗悪なマーガリンに対抗して、北海道酪農販売利用組合連合会（現・雪印乳業）が、天然バターとマーガリンを半々に配合する生産技術を開発し、発売したもの。

▲アジアが身近に感じられた時代　中国大陸の大部分が身近に考えられていた時代を反映して、いわゆる〝満蒙〟（中国東北部と内モンゴル）を題材にした「満蒙絵はがき」も作られ、大陸や国内で販売された。

埼玉県平和資料館蔵／平野美津子

▶情報端末機器としての時計　時計の専門メーカー精工舎は、すでに昭和12年にウオッチ製造部門として第二精工舎（現・セイコー電子工業）を設立していたが、その第二精工舎がこの年、将校用の精巧な腕時計「セイコーシャプレッション」を開発、軍に納入した。　セイコー時計資料館蔵／北出博基

▼録音機の開発で放送が変わった　すでに日常生活になくてはならないメディアに成長していたラジオだったが、この年、その情報収集・送出技術に大きなエポックがもたらされた。国産の高機能録音機が開発されたのである。「テレフンケン型円盤録音機」がそれで、ドイツから輸入したのと同型のものの国産化に成功。放送局内だけでなく、外で録音することも容易になり、聴取者は格段に幅の広い情報を得ることができるようになった。

NHK放送博物館蔵／乙咩雅一

腕時計は重要な軍用機器だった。

精工舎がウオッチ（腕時計を含む携帯時計）製造部門を独立させたのは、戦争の進行につれて需要が大きくなり、それに応じる必要があったためだ。質的にも高度なものを急ピッチで開発しなければならなかった。前線の部隊にとって、ウオッチは重要な情報機器であり、絶対に正確かつ丈夫でなければならなかった。写真はこの翌年に生産され納入された兵卒用の腕時計で、防水・防塵システムと24時間計を特徴とする高品質時計。盤面に見える星印は陸軍用であることを示しており、海軍用には錨のマークがつけられていた。

セイコー時計資料館蔵　北出博基

▲ガラスに託された贅沢感覚　戦時体制下、前年頃から、鉄や石油など多くの物資が軍需優先になり、日常生活において、各種の代用品が見られるようになっていたが、ガラスについてはまだ鉄や石油ほどには厳しい状況におかれていなかった。写真の「木の葉形ガラス皿」も、佐々木硝子店（現・佐々木硝子）がこの頃発売して人気を呼んだもので、わずかに残された贅沢感覚を刺激した。

▶ゲームにもどこか戦争のにおい　ほとんど古典的と言っていいカードゲームである「家族合わせ」にも、時代を反映したものが販売されるようになっていた。いろいろな階級の軍人の家族も、一般の家族にまじって登場したのである。

日本玩具資料館蔵

人物クローズアップ

中島知久平（五五）

航空戦を予言した男の信念が生んだ名機「零戦」のエンジン

◀陸軍一式戦闘機「隼」。中島飛行機が作った代表的傑作機のひとつ。軽快を身上とし、約5750機が生産された。「丸」提供

▼大戦末期の日本を代表する傑作機、陸軍四式戦闘機「疾風（はやて）」。「丸」提供

昭和一四年四月、後に太平洋戦争全期を通じ海軍の主力戦闘機となった「零戦」が初飛行した。機体の設計・製作は三菱重工業だったが、飛行機の心臓と言われるエンジンは、最初の三菱製を試作第三号機から中島飛行機製作の「栄」に換装。優秀な機体設計とコンパクトなわりに馬力がある「栄」エンジンとの組み合わせこそが、「零戦」を世界の航空史に輝く名機としたのである。ちなみに、中島飛行機は、同じエンジンを搭載した陸軍の主力戦闘機「隼」を製作している。

この中島飛行機の創立者であり、同年一月まで近衛内閣のもとで鉄道相をつとめ、さらに四月に分裂した政友会の革新派総裁となり国政に大きな影響をおよぼした男が、政治家でありまた一代の飛行機王である中島知久平（五五）だった。

中島は、昭和一一年にすでに日米戦争を不可避のものと予測し、来るべき戦争では戦闘の様相が一変し、戦艦に代わり航空機が主役の座につくと断言していた。

中島は、明治一七年一月一日、群馬県新田郡尾島村（現・尾島町）生まれ。事業好きの父と、父に従順なやさしい母よりも、男まさりの祖母の影響を受けながら育った。明治三三年、時あたかも日露の風雲急を告げる最中、愛国心に燃える中島は職業軍人を志し、祖母の反対を押し切る形で上京。苦学のすえ、日露戦争直前の明治三六年一〇月に海軍機関学校に入学。在学中に、日露戦争の終結を迎えた。

この戦争で日本を勝利に導いた日本海海戦での戦艦の活躍……誰もがまだまだ戦艦の時代が続くと信じたが、中島の頭の中は、すでに飛行機で占められていた。ライト兄弟の初飛行（明治三六年）の直後でもあり、また日露戦争後、海軍内で幅をきかせる砲術科に対し、機関科出身の中島の目には、登場してまもない航空機こそ海軍で立身出世するための新たな希望の星に映ったに違いない。

やがて中島は、海軍内で航空の権威となるが、「戦艦の建造競争では、米英など列強よりも経済力が劣る日本に不利。したがって、戦艦よりも圧倒的に安くできる飛行機を大量に作って、戦艦を攻撃・撃沈する以外に、日本の選ぶ道はない」と力説する中島の見方は、当時の海軍内ではあくまでも異端だった。そして、自分の信念に固執した中島が、大艦巨砲主義に固執する海軍を飛び出し中島飛行機の前身である飛行機研究所を創立したのは、大正六年末のことだった。

航空技術に詳しく、後に中島が構想した巨人爆撃機「富嶽」についての著作もある作家の碇義朗氏は、人間・中島知久平をこう評価する。

「技術者にして経営者、政治家にして偉大な予言者・中島知久平は、戦争中いち早くB29の日本本土爆撃による敗戦を予言し、米本土爆撃を提案して巨人爆撃機『富嶽』の製作に着手したが、雄大な知久平の構想を容れるには、日本は小さすぎたと言えるだろう」

中島の死は、敗戦から四年後の昭和二四年一〇月二九日、享年六五。「今後は大型旅客機や自動車を作りたい」と、あくまで飛行機作りに執念を燃やしながらの最期だった。

▲昭和15年、空戦で被弾して帰投した機体を視察する中島知久平（左端）。敵弾が命中した位置に矢がささっている。群馬県立図書館提供

▲この頃、政友会では正統派と革新派の内紛が続き、この年、正統派は久原房之助を、革新派は中島知久平を総裁に選び、党は完全に分裂。毎日新聞社

決定的瞬間

「脱出は絶望」との電報を打ち神出鬼没の独戦艦「シュペー」モンテビデオの港外で自爆！

一九三九年九月三日、ドイツと英仏は戦闘状態に入り、海上では補給路確保のため必死の攻防戦が行われていた。優秀なイギリス海軍に対して、ドイツ海軍はUボートのほか、一万トン級の「グラフ・シュペー」「ドイチェランド」などの〝ポケット戦艦〟を大西洋に展開。中でもハンス・ラングスドルフ艦長（四五）率いる「シュペー」は、大西洋を舞台に、一週間に一隻の割合でイギリス船舶を撃沈するという戦果をあげていた。

イギリス海軍はこの戦艦の殲滅を目的として、合計二三隻もの軍艦を九つのグループに分けて主要海域に展開。同年一二月初旬、ケープタウン沖合で三隻のイギリス船舶を撃沈した「シュペー」をついに確認した。

イギリス海軍のハーウッド提督は、「シュペー」の次の目的地は〝獲物〟の多い南米ラ・プラタ川の河口（ウルグアイ）だと予想し、八インチ砲巡洋艦の「エグゼター」と「カンバーランド」（補修のため結局は戦闘には遅れる）、六インチ砲巡洋艦「アジャックス」「アキレス」の四艦をラ・プラタ河口に集中するよう作戦を立てた。

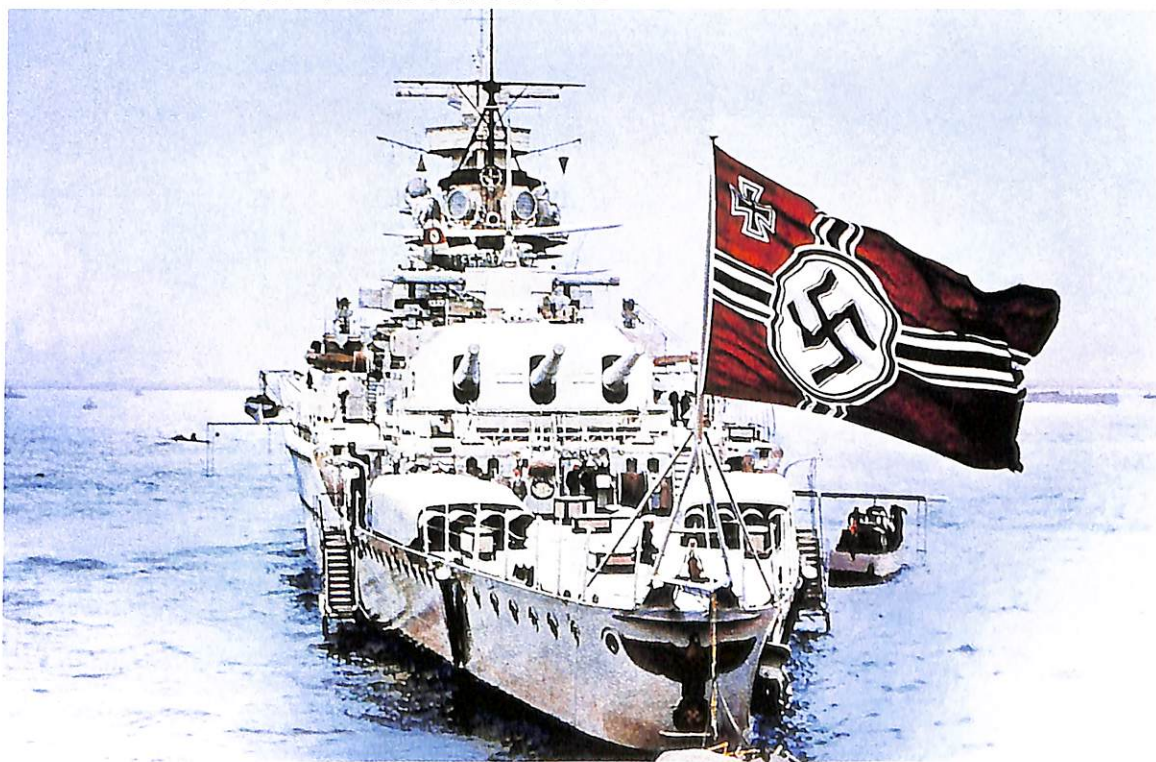
一二月一三日午前六時一四分、「アジャックス」は、はるか東の海上に煙が一筋立ちのぼるのを目にした。

◀1939年12月17日午後8時54分。日没の時刻。太陽が水平線上に没し、残照が消えようとした瞬間、「シュペー号」は炎の塊と化した。

ユニフォトプレス

▼ドイツ海軍の「シュペー号」。世界大戦開戦以来、単艦で南大西洋に出撃し、英商船9隻、計5万トン余を撃沈する戦果をあげていた。

bpk デジタルハウス

一一インチ砲六門を備え、速力二六ノットという「シュペー」の性能は、迎え撃つイギリスの三艦よりも優れていた。

「シュペー」は、まず「エグゼター」に襲いかかり、艦上の砲台をほとんど破壊するが、「エグゼター」の八インチ砲も「シュペー」に損害を与えていた。この間、接近していた「アジャックス」「アキレス」の両艦は損害を受けながらも、「シュペー」を痛めつける。一時間二〇分におよぶ戦闘のすえ、傷ついた「シュペー」は煙幕を張り、ラ・プラタ川河口、ウルグアイのモンテビデオの港に逃げこんだ。

しかし、ウルグアイは中立を宣言していた。「シュペー」の滞在猶予期間は七二時間しか認められず、同艦にとってこの港は安全の地とは言えなかった。翌一四日には、「アジャックス」「アキレス」、それに新たに戦列に加わった「カンバーランド」が港の出口をおさえた。一二月一六日、「シュペー」の艦長はドイツ本国に「脱出は絶望」との電報を打つ。本国からの返事は「自沈するとせば、破壊に万全を期せ」というものだった（W・S・チャーチル『第二次世界大戦』）。

一二月一七日の午後――モンテビデオ港は世界中の注目を集め、海岸通りにはおびただしい群衆が詰めかけていた。ウルグアイ政府が与えた七二時間の猶予時間が切れると、「シュペー」は港を出るか、ウルグアイ政府の捕獲を了承するか、二つにひとつしかない。「シュペー」は七百余人の乗組員の大半をおろした。アナウンサーは「いよいよです。〝海の虎〟は立ち上がろうとしています」と絶叫する。やがて、午後六時一五分、出港。この時、沖合に待つイギリス艦船は、万一に備えて戦闘ラッパを吹き鳴らした。

「シュペー」は、外洋に出たところで最後まで残った自沈要員をおろした。午後八時五四分、鈍い爆発音が二度、三度と響き、日没の光が残る洋上で「シュペー」が静かに傾いていった。ラングスドルフ艦長はその翌日の一八日、「艦長としてみずからの運命は艦の運命と不可分であります……」との遺書を残し、ピストル自殺をする。

美の出会い

「兵隊さんの見物も相当多い」出征した親族を思って大盛況 第一回の「聖戦美術展」開催！

昭和一四年七月六日から二三日まで、東京・上野の東京府美術館で第一回「聖戦美術展」が開催された。

「支那事変」二周年を記念したもので、国民精神をふるいおこし、軍事美術を奨励する目的で企画された展覧会である。陸軍美術協会と朝日新聞社が主催し、松井石根陸軍大将を名誉会長に、陸軍省情報部が支援。審査員には日本画家の橋本関雪、川端龍子、洋画家の藤島武二、石井柏亭ら一五人が選ばれた。作品は中村研一、向井潤吉ら招待作家の油絵や日本画、彫塑のほか、出征軍人、軍病院在籍者らから総計三七〇点が出品された。

これまでの上野の美術展のにぎわいといえば「文展」だったが、このたびの「聖戦美術展」は、それをはるかに超えるにぎわいとなった。その様子を美術雑誌「美之國」八月号の「こぼれ咄」欄は伝えている。

「ゑはがき屋の前はワンサ、砂糖に蟻も同然、食堂は大繁昌、兵隊さんの見物も相當多い。作品を見て廻るのが如何にも嬉しさうだ」

竹田宮をはじめ宮家のご夫妻が次々と訪れ、軍人・傷痍軍人はもちろん、教師に引率された小学生や一般人が炎天下にもかかわらず、続々と詰めかけた。一般の人々や軍人にとって、作品に描かれた風景は、みずからの体験や出征した親族への思いを募らせるものがあった。「東京朝日新聞」は「漲る『現地気分』」と題して参観した兵士の感想を紹介している。

「この繪の様に山又山を行軍し乍ら食料難に苦しんでゐた我々に、飛行機が乾麵麭や煙草を投下して呉れました、キャラメルなんかバラバラになつて、大騒ぎして山中を探したことを思ひ出します」

大別山戦線を描いた大野隆徳の作品の前で語ってくれた、この戦線で傷ついた酒井上等兵と渡辺伍長の話である。

この「聖戦美術展」以降、終戦にいたるまで、毎年、戦争美術展が開かれる。第二回「聖戦美術展」（一五年）、「紀元二千六百年奉祝美術展」（一六年）、「大東亜共栄圏美術展」（一七年）、「大東亜戦争美術展」（一七年）といった展覧会には、多くの画家や彫刻家が、積極的に参加していった。昭和一八年に大政翼賛会文化部は、全美術家に呼びかけて日本美術報国会を創設し、日本画家・横山大観が会長になった。同年、日本美術及工芸統制協会が創設され、美術家の資格認定や制作材料の配給を行う。

▶小磯良平「娘子関を征く」。油彩。昭和一六年の第二回聖戦美術展に出品された作品。

東京国立近代美術館提供

茨城県近代美術館提供

昭和一九年に女流画家二五人の合作「大東亜戦皇国婦女皆働之図」の制作に参加した洋画家の岡田節子さん（現・八〇歳）は、

「梅原龍三郎先生のお弟子だった長谷川春子先生が、女の絵描きもお国のために働かなくてはと呼びかけていました。男は戦地に出かけているから、女は銃後を描こうということになったのです」

と悔やみが残る口ぶりで語る。「戦後は気分がよくなかった。間違ったことをしたかしらって、戦犯みたいな気分になって、肩身が狭い気がしました。単純にがんばらなくちゃと一生懸命に描いたのだけれど」。

戦後は従軍画家を含めて、多くの画家たちが岡田と同じ思いを抱いていたことだろう。

昭和二〇年一〇月一四日の「朝日新聞」に「美術家の節操」と題する画家・宮田重雄の寄稿が載った。

「戦中、陸軍美術協会を牛耳り、戦後進駐軍の慰安を兼ねて日本美術を紹介する会を開くとは、あまりにも節操がないのではないか」という主旨の宮田の一文に端を発し、藤田嗣治らが糾弾され、逆に藤田から反論が出るなど、一時、戦争画問題が沸き起こった。しかし、その後は戦争画を見る機会もなくなり、次第に忘れられていった。

戦後五〇年以上を経た今、一般に戦争画を見たり考えたりする機会は極端に少なく、いまだにきちんとした評価がなされないままである。

東京国立近代美術館提供

▼「聖戦美術展集」（朝日新聞社）。昭和一四年七月二〇日発行。表紙は中村研一画「光華門丁字路」。

▲鈴木良三「鉄路員活躍」。油彩。昭和一四年の第一回聖戦美術展に出品された作品。鈴木は、中国、「満州」、ビルマなどを歴訪。

◀南政善「無錫追撃戦」。油彩。第一回聖戦美術展に出品された作品。

20世紀博物館

家具の博物館

機能性と装飾性を追求した簞笥や椅子がそれぞれの"物語"を持つ

東京・中央区

桑原茂夫

この「家具の博物館」には、一六〇〇点におよぶ貴重な家具がコレクションされており、そのうち二〇〇点ほどが常設展示されている。中でも数が多いのは簞笥と椅子で、それも、江戸時代後期から明治時代にかけての日本の簞笥と、ほぼ同時期のヨーロッパの椅子である。

これらの簞笥や椅子には、ひとつひとつのストーリーがあって、それを追っていくと、自然に家具というものの奥深さを感じさせられてしまう。

たとえば、館内に入ってすぐのところに「帳簞笥」という江戸時代の商家の道具が展示されている。帳場におかれていた簞笥で、これには、取扱商品や金銭、印鑑、帳簿など、ビジネスに欠かせない、大切なものが整理・保管されていた。それが帳場という、多くの人が出入りし、客の目にさらされる空間におかれるのだから、保守管理体制には万全を期していた。部外者には気づかれないからくり仕掛けの引き出しを設けるなど、それなりの細かい工夫が凝らされていた。そして客に対する印象をよくするために、デザインにも力を入れ、豪華な造りを誇るようなものも少なくなかった。

つまりこの「帳簞笥」は、ビジネスにおける機能性と、インテリアとしての装飾性の両方を追求した収納家具だったのだが、特に機能性という点で画期的だったのは、引き出しをたくさん持っていたことである。

引き出しを持つ簞笥というのは今ではあまりにも当たり前のことになってしまったが、蓋をしてしまいこむ、長持方式による収納が一般的だった時代に、引き出しで整理・保管するという発想は、まさしく革命的だったのだ。

このように、それぞれの簞笥の背景にはストーリーがある。ほかにも、錠前の金具に唐獅子を彫るなど、装飾性に富んだ「仙台簞笥」は、実は輸出向けに作られたものだったとか、階段の下の空きスペースを、その形と大きさに応じて簞笥にしてしまった合理的な「階段簞笥」が、大阪の商家を中心に作られたといった物語があって、それを展示品の説明書きから知ることができるのである。

この博物館のもう一方の中心的コレクションである椅子だが、これは履物を脱がないヨーロッパの生活空間には必須の家具だ。ここには、ビクトリア時代の引き出しつきロッキングチェアー、その頃の代表的な椅子と言ってよいウィンザー・チェアー、古代の意匠をほどこしたリージェンシー様式の椅子、ヨーロッパにおける椅子のベストセラー製作者ミハエル・トーネットによる、丸椅子と年間一〇万を超えるベストセラーとなったロッキングチェアー、最近のインテリア・デザイナーによる椅子などが目白押しで、その多様さにも驚かされる。

展示面積三〇〇平方メートルほどの博物館だが、まことににぎやかなのである。

▲ヨーロッパの19世紀の椅子。中央のロッキングチェアーには引き出しがついていて、その利用価値を高めていた。 乙咩雅一

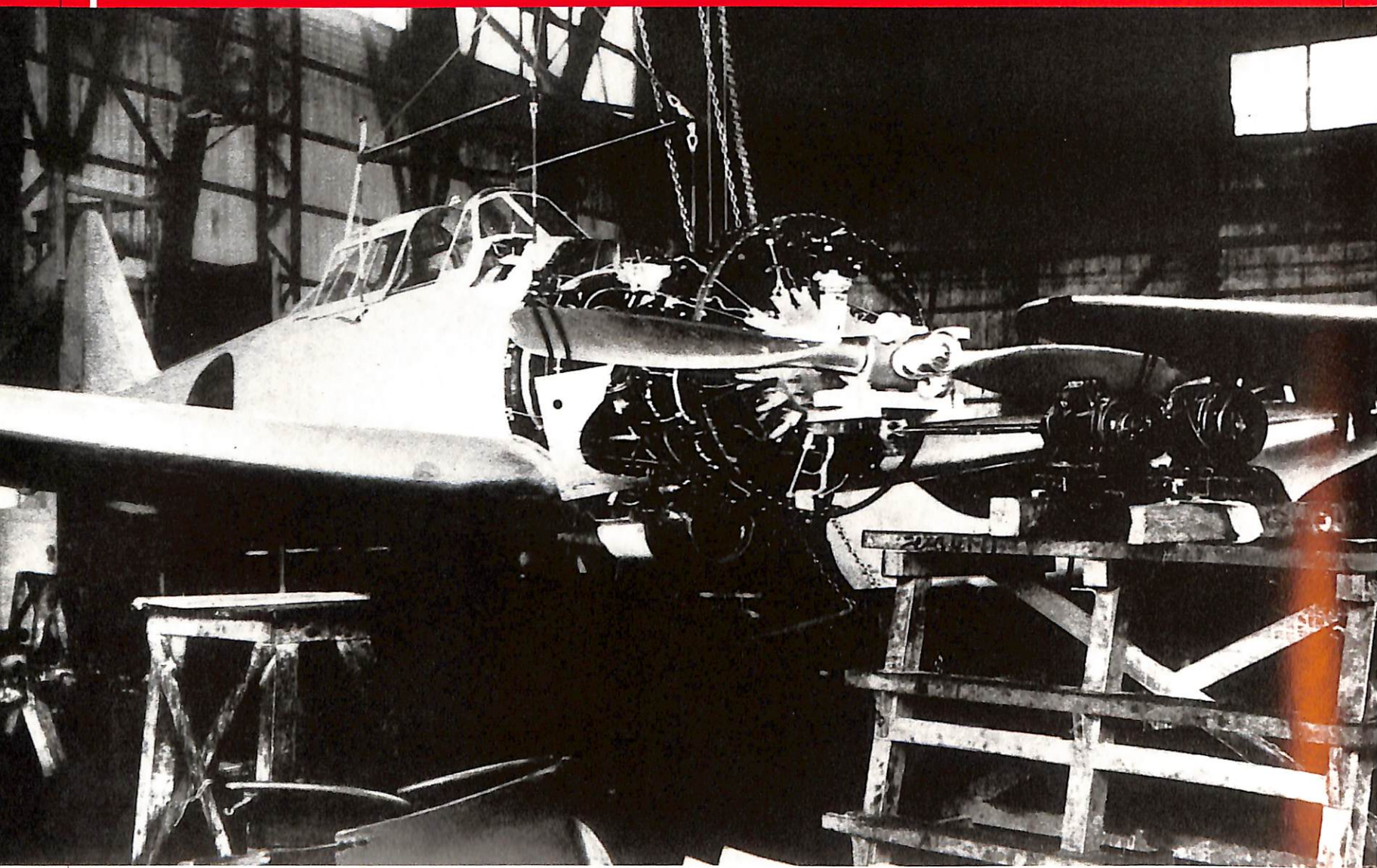
▶典型的な「帳簞笥」。江戸時代の商家に欠かせない、商品や書類などを整理・保管する家具だった。

▼今でいうキャスターつきの簞笥が手前に見える。このような「車簞笥」は、火事の多かった江戸時代のものだ。

▼「鏡台」という家具は秀逸なアイディアのもとに生まれた。手で持つのが当たり前だった鏡を、引き出しのついた台座に据えつけたのである。右奥に見えるのは、これも合理的な「階段簞笥」。

●家具の博物館
東京都中央区晴海三—一〇 J－Cビル
☎〇三—三五三三—〇〇九八
都バス、ホテルマリナーズコート東京前、ジャパン・インテリア・センター前下車
開館時間＝一〇時～一六時半
休館日＝水曜日、年末年始、夏期休館（八月一一日～一七日）
入館料＝一般四〇〇円

平均年齢24歳の設計陣が挑戦 最高速度533キロ、航続力3500キロ達成

名機「零戦」誕生！

▲「零戦」の原型となった十二試艦上戦闘機の試作第2号機。1号機の試験飛行の結果などを取り入れながら製作され、昭和14年10月18日に初飛行した。 野原茂提供

太平洋戦争中、連合軍機を震えあがらせた「零戦」が姿を現したのは昭和一四年四月一日。それは、平均年齢二四歳という若々しい設計陣が、発注者でさえ実現をあやぶんだ、厳しい要求に果敢に挑戦し、みごとな解答を示した瞬間であった。

常識を超えた要求はいかに達成されたか

昭和一四年四月一日午後四時、岐阜県・各務原飛行場の格納庫から、明るい灰色の機体に鮮やかな日の丸をつけた見慣れぬ飛行機が引き出された。「海軍十二試艦上戦闘機」、後の「零式艦上戦闘機」（「零戦」）の試作第一号機である。

午後五時三〇分、「十二試艦上戦闘機」は三菱の主任テストパイロット・志摩勝三の操縦で、高度一〇〇メートルで五〇〇メートルほど

▶三菱重工名古屋航空機製作所の設計陣。中央が主務設計者・堀越二郎技師、その左が曽根嘉年技師。 堀越都子提供

◀第12航空隊所属の「零戦」。同隊は実戦部隊では最初に「零戦」を装備した部隊である。「零戦」は合計約1万300機が生産されたが、これは日本一の生産数で、陸軍一式戦闘機「隼」の2倍近い数であった。

飛び、無事着陸した。降り立った志摩は「舵、釣り合いとも良好」と報告した。見通しが立ったことを最終的に確認できた一瞬であった。

「零戦」に対する海軍の要求はきわめて厳しいものであった。最高速度時速五〇〇キロ、最大航続力六時間以上、空戦性能は当時の主力戦闘機である九六式艦上戦闘機に劣らないこと、などがおもな内容である。海軍戦闘機部隊を主導した士官の一人である源田実は、この要求について、かつて次のように述懐した。

「要求性能はあまりに盛りだくさんで、速度・上昇力・航続力・兵装・運動性という相反する要素を同時に実現せよといっているのだから、設計者はさぞかし苦しんだであろう」

三菱はこの困難な仕事の主務設計者に三四歳の堀越二郎をあてた。副主務格の曽根嘉年や東条輝雄が二〇歳代後半、約三〇人のスタッフのうち半数は一〇代で、平均年齢二四歳という若いチームだった。

飛行機の性能は、ある意味では物理的に決まってしまう。エンジン、装備、運動性能を実現するために必要な主翼の大きさ、これらが変えられないのであれば、なんとか工夫して機体を軽くするしか道はない。

堀越はあらゆる部品について、たとえ一〇グラムでも軽くできるチャンスを見逃さないよう設計陣を指導した。もちろん、いちいち計算して強度を確認する必要がある。若い設計陣は、この地味で気の遠くなるような作業に果敢に挑戦した。

設計陣は重量軽減だけに挑戦していたわけではない。さまざまな新機軸が取り入れられた。定回転プロペラ、新素材「超々ジュラルミン」の採用、左右翼一体構造などなど、あげればきりがない。

こうして完成した「零戦」は、最高速度五三三キロ、航続力三五〇〇キロ、不可能と思われた要求をはるかに上回る性能を実現していた。

抜群の操縦性能で向かうところ敵なし

そのような「零戦」にも問題がないわけではなかった。試作段階の「零戦」は、高速時に昇降舵が効きすぎることがわかった。しかし、これが結果的には「零戦」をたぐいまれな名機に育てるきっかけとなった。

堀越は、それまでの常識を破る独創的なアイディアでこの問題を解決した。それは、操縦系統を意図的に〝弱く〟作るという方法だった。操縦桿と昇降舵などをつなぐワイヤーを細く弱く作って、高速で舵に大きな力が掛かる時にはそのワイヤーが伸びるようにするのである。こうすれば、一の力で操縦桿を引いた時に、低速では舵が一の動きをするが、高速では半分しか動かないということになる。

この方法は大成功だった。これによって「零戦」は、パイロットの感覚に忠実に動いてくれる操縦しやすい飛行機になったのである。

「『零戦』は私にとって青春そのもの。あの素晴らしい飛行機に乗り大暴れできたことは本望です。『零戦』はたくさんの優れた性質を持っているが、何よりもパイロットの意志のとおりに、手足のように動いてくれた。素直で操縦のしやすい飛行機でした」

こう語るのは、「撃墜王」の異名をとる坂井三郎氏（現・八一歳）である。

この操縦性の良さによって、「零戦」は日中戦争から太平洋戦争の初期にかけて、向かうところ敵なしの活躍をした。米軍の戦闘機パイロットは、「積乱雲に遭遇した時と『零戦』に遭遇した時は待避してよい」と指示されていたという。

堀越は「零戦」を語る時に、よく十種競技を例にあげた。

「『零戦』は十種競技のすべての種目で一位かそれと同等の記録を出し、いくつかの競技では他を圧倒する記録を出すよう要求された」

というのである。「零戦」は速度や上昇力で一位と同等の成績をあげ、旋回性能と航続力では他を圧倒する記録を出した。そしてそのうえに、数字には表せない「操縦のしやすさ」という点でも他を圧倒したのである。

◀試験飛行中に空中分解で墜落した、十二試艦上戦闘機試作二号機の残骸。原因追及のため、微細な破片まで徹底的に集められた。

「丸」提供

しかし、いかに名機とはいえ、かならず老いる時が来る。太平洋戦争末期、「零戦」は新しい戦法をひっさげて登場したアメリカの次世代戦闘機「F6Fヘルキャット」などに非常な苦戦を強いられた。エンジンを強力にするなど「零戦」にもさまざまな改良がほどこされたのだが、この趨勢をとめることはできなかった。「零戦」があまりにも極限の性能をねらい、改善の余地がほとんどないまでに完成されていたことも、その理由のひとつとして上げることができよう。

▼初期の「零戦」に搭載された「栄」一二型エンジン。14気筒950馬力でライバル・メーカーの中島飛行機製。

「丸」提供

当時の主要戦闘機の性能比較

機名	最高速度	航続力	武装
零式艦上戦闘機二一型（日本海軍）	533km／h	3500km	20mm機銃×2、7.7mm機銃×2
一式戦闘機「隼」一型（日本陸軍）	495km／h	1200km	7.7mm機銃×2
F4F—3ワイルドキャット（米）	531km／h	2700km	12.7mm機銃×4
スピットファイアMk1（英）	568km／h	800km	7.7mm機銃×8
メッサーシュミットBf109E（独）	570km／h	660km	20mm機銃×2、7.9mm機銃×2

零式艦上戦闘機21型内部図解

イラスト・池松均

7~8月

フォト＋日録で再現する365日

▼**金の「国勢調査」実施（7月1日）** 大蔵省が、全国民に金貨・金塊から装身具まで、あらゆる金を申告させた。虚偽の申告は500円以下の罰金という厳しさ。写真は、東京・麹町区役所に掲げられた看板。

クロマート提供

「国際写真情報」／国際フォト

▲**大相撲「満州」場所開催（7月7日）** 大日本相撲協会力士ら400名が、3日神戸港を出発。興亜記念日のこの日、大連の関東庁前広場で初日。以降、奉天・新京を巡業、15戦全勝の大関羽黒山が優勝した。

▲**「白紙」召集始まる（8月1日）** 国民徴用令に基づき、国民を軍需産業などに強制的に従事させる徴用令書（白紙）が発送された。第1号は建築技術者48人で、中国各地に送られた。

▶**戦死者遺児代表、靖国神社で黙禱（8月6日）** 「遺児の日」のこの日、父の英霊と対面するために全国から1324人が上京。昭和12年以来、すでに6万人の将兵が戦死していた。

毎日新聞社

▼**日本郵船の貨客船「墨洋丸」炎上・沈没（7月18日）** 太平洋上で、積み荷の銅鉱石が発火。3人が死亡したが、乗客・乗員212人を米船が救助。写真は、横浜港に着いた生存者。

毎日新聞社

▶**ゲーリッグ引退（7月4日）** ベーブ・ルースとともに、ヤンキースの黄金時代を支えた強打者で、「鉄人」と言われたが、進行性麻痺病に勝てなかった。生涯打率3割4分1厘。2130試合連続出場は、大リーグ記録。

CORBIS-BETTMANN　PPS

昭和14年7月

1（土）●政府、金の国勢調査（保有状況調査）を実施。
●東京芝浦電気、設立。社長・山口喜三郎。
●三菱銀行、初めて女性事務員二〇人を採用。

2（日）●第二三師団、ノモンハンで攻撃を再開（第二次戦闘が始まる）。

3（月）●サイダー五〇〇万本を戦線兵士へ送るため、東京に「空壜総動員令」が出る。

4（火）●閣議、労務動員計画で朝鮮人・女性含む一一〇万人動員を決定。

5（水）●空母「飛竜」が竣工。

6（木）●第一回聖戦美術展、東京府美術館で開催。

7（金）●大日本忠霊顕彰会、発足。

8（土）●国民徴用令公布。「白紙の召集令状」で徴用。
●奄美大島に台風襲来。三五四五戸が全半壊。

9（日）●渇水と石炭不足で産業用電力が欠乏と新聞に。

10（月）●東京の全郵便局で女子集配員採用と通牒。

11（火）●大阪商船「あるぜんちな丸」、処女航海で世界一周のクルージングに横浜港を出発。

12（水）●東京─下関間の新幹線計画がスタート。

13（木）●警防団の制服決定。国防色の上着など。
●京都府刑事課、片岡千恵蔵を麻雀賭博で召喚。

14（金）●警視庁、飲食店・撞球場などの新・増築を制限。

15（土）●陸軍、少年戦車兵制度を決定、募集開始。
●天津租界封鎖問題などで日英東京会談始まる。

16（日）●逓信省、速達などの深夜配達を廃止。

17（月）●興亜青年勤労奉仕隊学生隊、中国などへ出発。

18（火）●五相会議、ノモンハン事件不拡大方針を決定。

19（水）●伊の電気機関車が時速二〇四キロの新記録。

20（木）●東京の長者番付一位は屑鉄業者、と新聞に。

21（金）●閣議、低物価政策推進のため、総動員法発動による地代・家賃引き下げを決定。

22（土）●佐賀県立川炭坑で落盤事故。二七人が絶望。
●満鉄撫順工場で石炭液化工業化成功と新聞に。

23（日）●大日本飛行少年団主催の滑空競技会開催。

24（月）●全日本労働総同盟の全労派、産報推進を主張し脱退（11月3日、産業報国倶楽部を結成）。

25（火）●警視庁、流行の「幸運の手紙」取締りを通達。

26（水）●米、日米通商航海条約の廃棄を通告。

27（木）●土用の丑の日の鰻は九五銭が養殖物と新聞に。

28（金）●内務・厚生両省、「朝鮮人労務者内地移住に関する件」を通牒。朝鮮人強制連行始まる。

29（土）●警視庁、ラジオなど高音（騒音）取締りを強化。

30（日）●熱海─初島長距離競泳で佐世保鎮守府が優勝。

31（月）●関東に豪雨。落雷で火災続発、二万戸が浸水。

証言・あの日この日

色川大吉（14）

9月24日（日）　〈映画館を出てすっかり憂鬱になってしまった！／『愛する事と愛される事とが人生最大の幸福である』といふ意味が明瞭にわかった。そして僕はとつぜん軍人なんか止めてしまへ、高等学校に進んで恋愛を試みよう、と思ふにいたった〉（色川大吉『ある昭和史』）

この頃の映画は、戦争ものが主流だった。しかし昭和13年9月15日に封切られた松竹の恋愛映画「愛染かつら」は、続編などを合わせると観客動員数1000万人以上、純益300万円以上の大ヒットとなった。未亡人看護婦と青年医師とが、さまざまな障害を乗り越えて結ばれる〝典型的な通俗もの〟だが、大衆には大受けした。歴史学者・色川大吉は当時軍国少年で陸軍幼年学校志望だったが、この日、1年遅れで「愛染かつら」を観て軍人志望を放棄、文科系に志望を変更する。　（山崎行太郎）

毎日新聞社

▲**「ニッポン号」世界一周へ（8月26日）** 「東京日日」「大阪毎日」による大企画。三菱双発型輸送機で羽田を出発、東回り5万2860キロを実飛行194時間で周航、10月20日帰着した。

毎日新聞社

▲**6世尾上菊五郎、甲子園球場特設舞台に出演（8月16日）** 星月夜の野天に造られた奥行き4間、間口15間のよしず張りだったが、大観衆を前に、得意の操三番叟と素袍落を熱演した。

▲**山本五十六中将、連合艦隊司令長官に（8月30日）** 「武人としてこれ以上ない名誉」と語った。新潟県出身、56歳。対米戦争には慎重と言われたが、後にハワイ真珠湾攻撃を立案した。

▼**独ソ不可侵条約締結（8月23日）** ポーランド分割にも秘密合意。これで英仏ソ会談は決裂、ポーランドは風前のともしびに。写真は署名するリッベントロップ独外相と後方にスターリン。

キーストン

◀**軍用トラック全盛（8月）** ガソリン不足から小型乗用車は製造禁止、前年10月に完成した月産能力1500台のトヨタ量産工場も、その99パーセントがトラックだった。写真は、日産横浜工場がこの月生産した81型トラック。

藤本四八　JPS

昭和14年8月

1（火）●政府、消費に関する「物の国勢調査」を実施。

2（水）●宝塚歌劇学校生徒が反英大会での弁士を拒否した件で、校長が憲兵隊に「自粛」を誓約。
●東京市ハエ取りデーで八五二万匹捕獲。個人一位は一週間に三二万匹、と新聞に。

3（木）●久米正雄「白蘭の歌」、東日・大毎で連載開始。

4（金）●大本営、第六軍を編組しノモンハンに配備。

5（土）●東京で産業報国会結成の工場が千八百余に。

6（日）●東京市電気局が水冷装置で性能向上した木炭バス一〇〇台を全線に配車、と新聞に。

7（月）●三越・高島屋など東京の百貨店、八の日休日制を廃止し、月曜定休制を採用。

8（火）●東京市、青年学校長の第一回軍事教練を実施。

9（水）●厚生省、女子坑内労働禁止の緩和を決定。

10（木）●賃金上昇率が物価上昇率を下回ると労働統計。

11（金）●文部省、推薦児童図書に『国の護り』など指定。

12（土）●東京の赤痢患者増加、一万七二〇七人になる。

13（日）●シンガポールで排日運動が激化。

14（月）●警視庁、銀座など繁華街での騒音調査を開始。

15（火）●東京市、月二回の隣組回報（回覧板）発行開始。

16（水）●学生の競技試合を休日と土曜午後以外禁止。

17（木）●伊豆諸島の鳥島が爆発。全島民が避難。

18（金）●神戸─廈門間の定期航路第一船が神戸港出航。

19（土）●日本放送協会、三越でテレビを初の一般公開。

20（日）●ソ連・モンゴル軍、ノモンハンで総攻撃を開始。関東軍第二三師団・第七師団、壊滅。

21（月）●天津租界問題に関する日英会談、決裂。

22（火）●政府、汪兆銘政権樹立を援助する「梅機関」を上海に開設。

23（水）●モスクワで独ソ不可侵条約調印（28日、平沼内閣が「欧州の天地は複雑怪奇」と総辞職）。
●蝶の一種イチモンジセセリの大群、三四年ぶりに旱天の大阪市内を通過。

24（木）●大島駐独大使、欧州情勢悪化のため、在独邦人に引揚げを勧告。
●英、対ポーランド相互援助条約に調印。

25（金）●農林省、米価抑制のため最高販売価格を公定。

26（土）●米で初の大リーグ・テレビ中継。

27（日）●独で世界初のジェット機飛行実験が成功。

28（月）●上海で、国民党汪兆銘派が全国大会。汪兆銘を主席に選任し、日中和平を決議。

29（火）●京都・醍醐寺、山火事延焼で客殿など全焼。

30（水）●陸軍大将・阿部信行内閣成立。

31（木）●関東地方で一〇万。電力供給制限を実施。

▲物価・賃金に「9・18停止令」(9月19日)インフレを抑制するため、すべての価格を9月18日現在に凍結。しかしその不均衡がさらなる統制を呼び、闇値・闇屋を横行させた。写真は、値段を隠した長野市の食堂。

川上今朝太郎

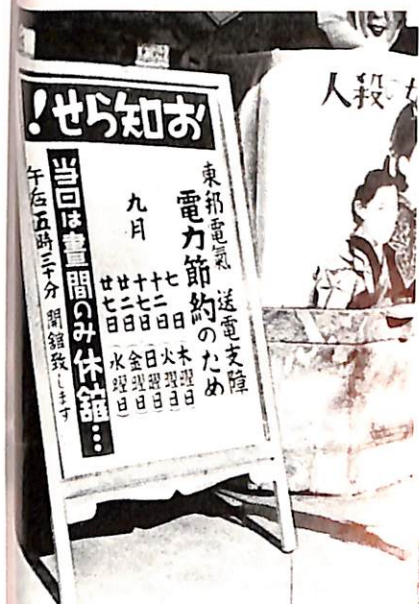
▲初の帝都市民体育大会開催(9月24日)東京市が主催、神宮外苑競技場で体力検定種目と国防訓練を組み合わせた競技などを行った。写真は、防毒面をつけて走る「毒ガス線突破競走」。

毎日新聞社

▼初の興亜奉公日(9月1日)「戦場ノ労苦ヲ偲ビ」毎月1日に実施。国民精神総動員運動の新展開で、国民は早朝参拝、一汁一菜・禁酒禁煙などを励行、休業する飲食店が多かった。

◀チフス菌入りまんじゅう事件に無期求刑(10月14日)結婚を夢見てつくした男に裏切られて4月に凶行。発病12人、死者一人を出した元女医(39)に神戸地裁で。結局翌年懲役8年となった。手前、うなだれる被告。

毎日新聞社

▼バスガール、東京発上海へ(9月21日)東京のバス会社から志願、選抜された19~24歳の18人で、華中都市自動車会社に1年間勤務した。

▲電力供給制限(9月7日)8月下旬から、関西・関東で送電1割制限などを実施。和歌山県では、この日から5日ごとに昼間の配電が停止となったため、映画館はそれに合わせて昼間の興行を休業した。

毎日新聞社

昭和14年9月

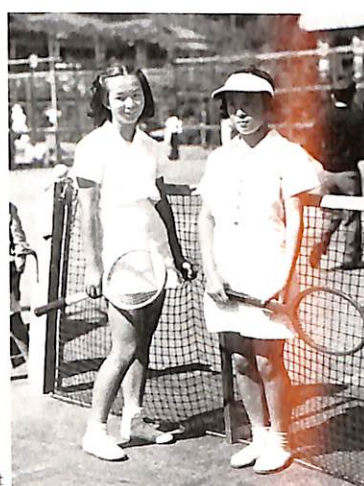
1(金)●独、ポーランド侵攻。第二次世界大戦始まる。
●日本軍の傀儡「蒙古連合自治政府」成立。
●初の興亜奉公日。歓楽街は休業状態に。
2(土)●東京・大阪の株式市場高騰。戦争景気に期待。
3(日)●英仏、独に宣戦布告。
4(月)●日本政府、欧州戦争への不介入を声明(5日、米も中立宣言、交戦国に武器禁輸)。
5(火)●徳川夢声、ラジオで「宮本武蔵」の放送開始。
6(水)●「眠り病」(日本脳炎)、東京で四年ぶり流行。一月以来六三〇人が発病。
7(木)●関東軍司令官・植田謙吉大将解任、後任に梅津美治郎中将。
●空襲による水道破壊に備え、東京市が二〇万カ所の井戸の水質調査を完了、と新聞に。
8(金)●大日本航空機、鈴鹿山腹に激突。五人死亡。
9(土)●東郷駐ソ大使、ノモンハン停戦を申し入れる。
10(日)●貴族院多額納税議員選挙。無競争当選二七人。
11(月)●傷痍軍人・戦没者未亡人のための教員・保母養成所、全国七カ所に開設。一七四人入所。
12(火)●厚生省制定の「大日本体操発表会」、開催。
13(水)●好況で就職難解消、と新聞に。
14(木)●日本郵船の「靖国丸」、欧州の日本人避難民二一九人を乗せてニューヨークに入港。
15(金)●モスクワでノモンハン事件停戦協定成立。
16(土)●東京高速鉄道と東京地下鉄道、地下鉄渋谷浅草間の直通運転を開始。
17(日)●ソ連、東部ポーランドへ侵攻。独ソで分割へ。
18(月)●東京市、「紀元二千六百年」記念の宮城外苑整備計画発表。市民に半年の勤労奉仕強制。
19(火)●閣議、すべての物価賃金の、一八日現在の価格からの引き上げ禁止を決定。
20(水)●高峰三枝子・霧島昇歌「純情二重奏」発売。
21(木)●東京のバスガール一八人、上海勤務に出発。
22(金)●閣議、外国劇映画の輸入は年五〇本と規制。
23(土)●大本営、「支那派遣軍」総司令部設置を命令。
24(日)●第一回帝都市民体育大会、神宮競技場で開催。
25(月)●日本放送協会、電力節約のため番組の一部休止を開始。
26(火)●女学生の愛読書一位は『麦と兵隊』と新聞に。
27(水)●独軍の包囲と空爆により、ワルシャワ陥落。
28(木)●文部省、中等学校入試の学科試験廃止を通牒。
29(金)●東京市政革新同盟、内相に都制実現を要望。
30(土)●厚生省、結婚十訓を発表。「晩婚を避けよ」「産めよ殖やせよ」など。

朝日新聞社

新日鐵広畑製鉄所提供

▲姫路市で、広畑製鉄所第1高炉火入れ式(10月15日)日本製鉄第4次拡充計画に基づくもので、日量1000トン。以降も次々に建設され、日本は米国に次ぐ大型溶鉱炉保有国となった。

毎日新聞社

◀中村福助、結婚(10月12日)昭和7年、「娘道成寺」を踊って注目された女形で、22歳。新婦は1歳下だった。写真は新婚家庭の二人。福助は後の6世歌右衛門。昭和54年に文化勲章を受けた。

▲木炭スタンド登場(10月)石油の軍需最優先のため、日本は木炭自動車時代に突入、各所に補給所ができた。写真は神戸の三宮。車体後部のガス発生炉に、専用木炭を入れている。

毎日新聞社

▲動物捕獲・射殺訓練(10月)東京の上野動物園で、破壊された檻から猛獣が逃走という想定で、ヤギを代役に実施。昭和12年に第1回の訓練が行われた結果、空襲対策が重要な課題として浮上した。

毎日新聞社

▶昭和天皇、靖国神社に行幸(10月20日)臨時大祭4日目のこの日、新たに合祀された1万379人に親拝。写真は天皇を奉迎する、左から阿部首相、近衛枢密院議長、永井鉄相ら。

▶東日庭球選手権で加茂純子が優勝(10月1日)東京の田園コートで行われた第20回大会8日目、女子シングルス決勝で圧勝。写真は、準決勝で6―2、8―6と加茂(右)を脅かした宮城黎子と。

毎日新聞社

昭和14年10月

1(日)●初の「体力章」検定実施。一五~二五歳男子に。
●英、二〇~二二歳の男子全員の徴兵を決定。
2(月)●各中央官庁、使用ずみ文書の再生利用を決定。
3(火)●神戸で日本郵船上海航路の「香取丸」でコレラ発生。警察は上陸ずみ船客を全国に手配。
4(水)●米で「別離」封切。スウェーデンの女優イングリッド・バーグマンがハリウッドでデビュー。
5(木)●日大予科教授ら一三人、盟休学生四百余人の除名処分に抗議し辞表を発送(7日除名撤回)。
6(金)●無医村が増加、全国で三六〇〇と新聞に。
7(土)●豚肉不足のため東京で一時販売停止措置。
8(日)●「満州国」政府、翌々年から徴兵制実施と発表。
9(月)●清酒の最高価格決定。銘柄品一升二円二〇銭。
10(火)●仏政府、独の和平提案を拒否。
11(水)●ソ連、フィンランドにカレリア割譲を要求。フィンランド拒否(11月30日、ソ連侵攻開始)。
12(木)●ドイツ在住ユダヤ人の、プラハ・ワルシャワへの移送が始まる。
13(金)●閣議、関門鉄道トンネルの複線化を決定。
14(土)●火野葦平原作・田坂具隆監督「土と兵隊」封切。
15(日)●日鉄広畑製鉄所第一高炉で火入れ式挙行。
16(月)●独空軍、英本土を初空襲。
17(火)●英、戦後インドに自治付与と表明(27日、インド国民会議派は独立の確約を要求)。
18(水)●価格等統制令公布。物価・賃金を凍結。
19(木)●二一年度完工予定の京浜運河起工式を挙行。
20(金)●東京府商店街組合、第一回優良店員表彰。
21(土)●北海道の三菱鉱業手稲鉱山で強制連行と虐待に抗議し朝鮮人労働者二九三人がストライキ。
●米で、原爆の可能性さぐる「ウラン諮問委員会」が第一回会合。
22(日)●第一回女子強歩大会で、一三歳の少女が優勝。
23(月)●高女五年生の七四%が二週に一度は映画鑑賞との娯楽調査結果が新聞に。
24(火)●逓信省、諜報防止のためラジオ商に受信機販売先の報告を義務づける。
25(水)●政府、ポンド急落で為替基準をドルに変更。
26(木)●東京の一〇月小売物価が前年比二〇%上昇。
27(金)●鉄道省、駅弁に白米やめ七分搗米使用と決定。
28(土)●大日本弁護士会連合会創立。
29(日)●明治神宮国民体育大会、厚生省主催で開会。
30(月)●ニューヨーク万博閉幕。日本館庭園を保存へ。
31(火)●東京世田谷の等々力ゴルフ場、内務省防空研究所移転のため閉鎖。

11~12月

◀**南寧作戦開始(11月15日)** 欽州湾に上陸して北上、24日占領した。「援蔣ルート」遮断のため、日本軍はついにベトナム国境近くに到達。写真は、台湾歩兵第1連隊。

▼**岩手県・松尾鉱山で落盤事故(11月10日)** 国内の硫黄の8割を産出、東洋一と言われた。144人が生き埋めとなり、亜硫酸ガスも噴出、死者・行方不明者85人の惨事となった。

毎日新聞社

◀**『土と兵隊』の火野葦平、ひっぱりだこ(11月)** 中国の戦場から2年ぶりに帰還、12日上京したが、講演・対談で大忙し。写真左から菊池寛、火野、横光利一、久米正雄。

毎日新聞社

▼**日本郵船の「照国丸」、機雷に触れ沈没(11月21日)** カサブランカからロンドンへ向かう途中、ドーバー沖で災難。幸い乗客・乗員205人は全員救助。大戦開始で英独とも、この海域に機雷を敷設していた。

毎日新聞社

▶**野村・グルー会談、開始(11月4日)** 7月に通商航海条約廃棄を通告された日本が、関係修復を求めた東京会議だったが、野村吉三郎外相とグルー駐日大使の意見は平行線。翌年、条約は消滅した。

▶**ヒトラー暗殺未遂(11月8日)**「ミュンヘン一揆」記念式典が行われていたミュンヘンのビヤホールで、爆弾が炸裂。約70人が死傷したが、ヒトラーはその10分前に退席、難を逃れた。36歳の無政府主義者が、犯行を自供した。

DPS

昭和14年11月

1(水)●阿賀野川河口で渡し船二隻転覆。四〇人溺死。
●二世市川猿之助、木村富子作「黒塚」を初演。
2(木)●政府、米不足から外国米を輸入手配中と発表。
3(金)●キリスト教新旧両派、連合信徒大会を開催。
4(土)●米、中立法を改定し武器禁輸を撤廃。
●野村外相とグルー駐日米大使会談、日米国交調整交渉を開始。
●米自動車メーカーのパッカード社、エアコン装備車を発表。
5(日)●陸軍予科士官学校採用二〇〇〇人発表。競争率は過去最高の一二倍。
6(月)●農林省、米穀の強制買い上げ制など実施。
7(火)●八路軍捕虜の前田光繁ら、山西省で反戦組織「日本人覚醒連盟」を結成。
8(水)●ミュンヘンのナチス党大会で爆弾爆発。七十余人死傷、ヒトラー暗殺失敗。
9(木)●節米で酒造米二〇〇万石削減と大蔵次官言明。
10(金)●朝鮮総督府、「朝鮮民事令中改正ノ件」、「朝鮮人ノ氏名ニ関スル件」公布。創氏改名強制へ。
●岩手県松尾鉱山で落盤。八五人死亡・不明。
●国債残高二〇四億円と大蔵省。二年で倍増。
11(土)●兵役法施行令改正。「第三乙種」を新設。
12(日)●浅草・東本願寺の鉄筋の本堂落成。五万人参集。
13(月)●英仏、日本の要求に従い華北駐屯軍撤退通告。
●大日本航空が米から購入したダグラスDC-4四二人乗り旅客機、羽田で初試験飛行。
14(火)●結核予防国民運動、全国で開始。
15(水)●夕張炭鉱で朝鮮人労働者二三八人が入坑拒否。
16(木)●タバコを平均一四銭値上げ。バット九銭など。
17(金)●福岡県小倉署、競馬予想の発売中止を命令。
18(土)●日本体操連盟、「百キロ強歩章検定大会」開催。
19(日)●電信で結果連絡し合う日米女子弓道試合開催。
20(月)●東京瓦斯、全社員動員し各家庭に節約を懇請。
21(火)●日本郵船「照国丸」、英国で機雷に触れ沈没。
22(水)●築地小劇場、新装成り落成式を行う。
23(木)●全関東聾唖学校剣道大会開催。全国初の大会。
24(金)●「朝日新聞」家庭欄に「代用主食の炊き方」連載。
25(土)●「白米禁止令」公布(12月1日施行。七分搗き以上禁止。違反は三年以下の懲役など)。
26(日)●千葉県鋸山の日本寺で火災、本堂など焼失。
27(月)●ノーベル賞審査委員会、平和賞授賞を中止。
28(火)●経済諸団体が中央物価統制協力会議結成。
29(水)●農民運動団体が連合し農地制度改革同盟結成。
30(木)●野村外相、仏大使に蔣政権援助停止を要求。

毎日新聞社

◀**男子国民服デザイン審査(12月)** 陸軍被服協会と「大阪毎日」「東京日日新聞」が前月、軍服にもなる、背広の代用になるなどを条件に募集、282点の作品が集まった。翌年1月に「標準様式」が決定。

▲**白米禁止(12月1日)** 米穀搗精等制限令が実施され、米はすべて7分づきで供給されることになった。長びく戦争で不足しがちな主食を、少しでも節約しようというもの。写真は東京・三越本店の食堂。

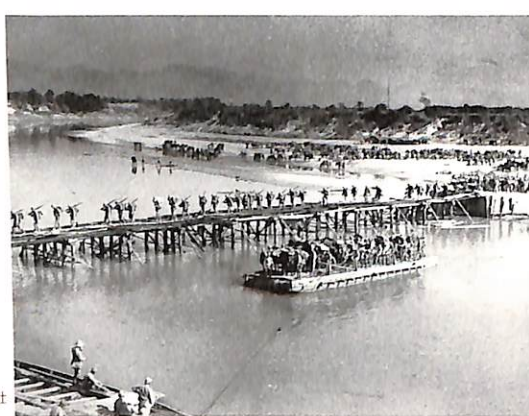
日本コロムビア提供

「国際写真新聞」

◀**ソ連、国際連盟除名(12月14日)** 前月、宣戦布告なしにフィンランドに侵攻、近隣諸国、英・仏・米から非難をあびていた。写真は、ジュネーブで開かれた総会。左がソ連代表・ソウリッツ駐仏大使。

▼**リボンブーム(12月)** パーマ禁止令の反動か、髪を大きなリボンでとめるヘアスタイルが流行。12月30日付「東京朝日」に「ピンと立てるのが戦時乙女らしい」の記事。写真は師走の銀座。

朝日新聞社

▲**霧島昇(25)・松原操(28)結婚(12月17日)** 大ヒット曲、映画「愛染かつら」の主題歌「旅の夜風」(昭和13年発売)でのデュエットが縁結び。媒酌人は作曲家の山田耕筰夫妻。

▶**日本軍、さらに南進(12月)** 汕頭、南寧占領後もなお「援蔣ルート」を断つことができず、ベトナム国境の町、龍州にまで進出した。写真は、寧明近くの郁江を渡河する日本軍。

毎日新聞社

昭和14年12月

1(金)●谷田部・百里原・岩国各海軍航空隊、開隊。
2(土)●「九州・大阪で米騒動」との流言で五人検挙。
3(日)●新潟県千手町で鉄道省の信濃川発電所落成式。
4(月)●新響定演で、ベートーヴェンの歌劇「フィデリオ」を全曲演奏。指揮ローゼンストック。
5(火)●厚生省、一〇人以上の多子家庭に大臣賞決定。
●大河内傳次郎・小杉勇・原節子ら俳優六百余人が出席し、日本映画俳優協会発足。
6(水)●小作料統制令公布。九月一八日の小作料基準。
7(木)●満州の工業塩産出量が前年の倍五二万トンに。
8(金)●一五年度予算概算決定。軍事費は六四%。
9(土)●ごはん節約へ「噛みしめ運動」提唱と新聞に。
10(日)●スキー宿は前年の二割高で二円前後と新聞に。
11(月)●ブロマイド販売一位は男優は上原謙、女優は田中絹代、と新聞に。
●福島女子師範が「もんぺ」を制服採用と新聞に。
12(火)●軍機保護でビルや高台からの俯瞰撮影禁止。
13(水)●婦選獲得同盟、婦人問題研究所設立を決定。
14(木)●国際連盟、フィンランド侵略でソ連を除名。
15(金)●長野県神科村、必需品に全国初の切符制実施。
16(土)●蔣介石、「第一次反共討伐」開始を命令。
17(日)●霧島昇と松原操、結婚。
18(月)●電気庁、ネオンなどの電力供給停止を告示。
19(火)●都市計画東京地方委員会、四防空公園の造営と田園調布の初の住居専用地区化を決定。
20(水)●陸軍、軍備充実四ヵ年計画を策定。地上六五個師団、航空一六〇個中隊を整備。
●東京の全百貨店食堂で麦二割混入飯を開始。
21(木)●「支那派遣軍」、部隊間年賀状交換全廃を示達。
22(金)●グルー米大使、新通商航海条約締結を拒否。
23(土)●相模鉄道上溝駅付近で列車衝突。五〇人負傷。
24(日)●第一回全日本東西対抗排球競技会、開催。
25(月)●鹿地亘ら、中国・桂林で日本人民反戦同盟結成。
●東京の銭湯が午後二時開業、蛇口数も制限。
26(火)●衆院議員二百四十余人、内閣不信任を決議。
27(水)●農林・内務両省、地方競馬廃止の省令を公布(昭和15年1月1日から実施)。
●トルコ・アナトリア地方で大地震。死者三万人以上。
28(木)●年賀郵便受け付けが日中戦争前の二割に激減。
29(金)●東京各駅の歳末荷物取り扱いが前年の二割増。
30(土)●汪兆銘、日本の要求により、日本の権益を認める「日華新関係調整要項」を作成。
31(日)●第一徴兵保険、契約高一〇億円を突破。

▲3月26、27日に、藤原歌劇団が歌舞伎座で、ビゼーの「カルメン」を上演した。写真は藤原義江(右)と由利あけみ。

我楽多市

流行語
出た！ 赤マントの人さらい

「赤マント」。昭和一四年初め、東京市を中心に、赤いマントを着た怪人が女の子をさらっているというデマが広がり、名古屋・大阪にまで伝わった。警察の調べで紙芝居の筋が〝デマの源〟と判明したが、一時は不安神経症の女の子が続出する騒ぎとなった。

「白紙(しろがみ)」。七月に国民徴用令(ちょうようれい)が実施され、熟練労働者が軍需工場へかり出されることになった。徴兵が赤いはがきで召集されたのに対し、徴用の召換状は白い紙が使われたことから「シロガミ」と呼ばれた。

「ストップ令」。物価などを九月一八日水準で凍結する九・一八ストップ令以後、会合や都合の悪い話を打ち切る時「はい、ストップ令にしよう」などと使われた。男女の仲が終わった時にも用いた。

「一日戦死」。本来は国民精神総動員運動のスローガンで「戦地の兵士の苦労をしのび、一日戦死したつもりで勤労奉仕に励もう」という趣旨だが、民間では逆に仕事をさぼるという意味で流行した。

「一坪菜園」。「ひとくれの土、一粒の種子も資源です」というスローガンのもと、食糧の自給自足をめざして庭先や空地に野菜を作る運動が進められた。これが「一坪菜園」と呼ばれて、上からの運動としては好評だった。

食
郷土料理の代表に 埼玉の忠七飯

埼玉県の郷土料理「忠七飯(ちゅうしちめし)」が昭和一四年に行われた宮内省(現・宮内庁)の全国郷土料理調査で、日本の代表的料理に選ばれた。

これは老舗の割烹(かっぽう)旅館「二葉」の八代目八木忠七が、幕末・明治の剣客で政治家でもあった山岡鉄舟(てっしゅう)から「料理に禅味を盛れ」という注文を受け、創始したという。

作り方は温かいごはんに薄い味のもみ海苔(のり)をまぜておく。これにワサビ、ユズ、さらしネギの薬味をそえ、独特のおつゆをかけて食べる。鉄舟がめざした「剣・禅・書」の精神をワサビ・海苔・ユズで表したもので、ワサビのピリリとした刺激の中に剣の鋭さ、海苔の薄い味の中に禅、そしてユズの香り高い中に書の精神がこめられている。これを食べた鉄舟は「我が意を得たり」と喜んだという。

(川上行蔵・西村元三郎監修『日本料理由来事典』)

レジャー
慰問品で人気爆発 天童の将棋駒

〔山形発〕 天童(てんどう)の将棋駒の名は全国に鳴り響いているが、戦地では将棋が兵士の唯一の楽しみとなっていることが伝わるにつれ、慰問品として天童駒の人気が沸騰(ふっとう)、各方面より大量注文が殺到している。

業者たちは電動製造機などを設置して、兵士慰安のため製造に狂奔(きょうほん)しているが、到底注文に応じきれないとうれしい悲鳴を上げている。

これにともなって値段もこれまでの数倍という暴騰ぶりで、業者にはここ当分、わが世の春が続きそうである。

(「山形新聞」五月三一日)

住
部屋代は一畳四円 東京市のアパート調べ

警視庁が東京市中のアパートの調査を行った。それによると市内には一三室以上のアパートが一九六一棟あり、貸し室の総数は六万一〇〇〇室、居住者は一〇万人に達する。さらにこれ以下の小規模アパートが一万室あり、この住人が五万人。アパートが多いのは蒲田区の二〇〇棟、品川区の一〇〇棟、淀橋区の一九〇棟などである。

室料は「満州事変」前は一畳一円、六畳間で電気、水道ともに一六円が普通だったが、「事変」後は四畳半ひと間で一八円が最低になった。軍需景気でこの相場はさらに上がりそうだという

(「都新聞」一一月一四日)

CM100年

新聞CM 「水虫と兵隊──ポンホリン」(塩野義製薬)

▲火野葦平が徐州会戦に従軍して発表した「麦と兵隊」「土と兵隊」「花と兵隊」のブームにあやかり、「○○と兵隊」というキャッチフレーズが流行。

▲「アサヒグラフ」一〇月四日号に掲載された鈴木耕輔画「英国排斥時代」。

日本漫画資料館提供

朝日新聞社

▶大阪交通公社が男性に代わり採用したサービス嬢が、三月二七日から、大阪のおもなタクシー乗場に登場。

三面記事
婦道高揚の〝反英包囲マゲ〟

この年、「パーマネント」という言葉を廃止して「電髪(でんぱつ)」と改称した業界は「今後は髪型を通して日本婦道の高揚に貢献する」と宣言。

それを受けて七月、代表的な美容師である山上クニが「これぞ日本婦道の象徴」という〝反英包囲マゲ〟を発表した。これは後部の中央に丸い空間を設け、それを三つの髪の束が取り囲んでいるというスタイルで山上自身がその意図を次のように説明している。

「この三つは日本、『満州国』、『新興支那』を示し、中央の輪(空間部分)は天津(テンシン)のイギリス租界(そかい)を表します。輪の中央にバラの花を一個、姿はやさしいがトゲのある、イギリスの国花です。『日満支』の美しくも力強い協力の結果、水ももらさぬ包囲陣ができました。イギリスはその中で肩身も狭く恥じ入っているのです」

(「主婦之友」八月号)

社会
戦争は最大の犯罪防止策？ 減少する〝塀の中の人々〟

全国刑務所の収容人員は明治・大正・昭和を通じて平均五万人と言われていた。事実、日中戦争勃発(ぼっぱつ)前の昭和一二年六月末の受刑者総数は五万八〇四人だった。これが戦争一周年の一三年六月末には四万八七六二人、二年後の今年六月末には四万四六一五人と、二年間で六一八九人も減少している。これも戦争のもたらした大きな影響で、時局の重大性の認識が悪の抑止力となっているのであろう。

(「京都日出新聞」九月一八日)

はやり歌

愛馬進軍歌
作詞 久保井信夫
作曲 新城正一

国を出てから　幾月(いくつき)ぞ
ともに死ぬ気で　この馬と
攻めて進んだ　山や河
とった手綱(たづな)に　血が通う

きのう陥(おと)した　トーチカで
きょうは仮寝(かりね)の　高いびき
馬よ　ぐっすり眠れたか
明日の戦(いくさ)は　手強(てごわ)いぞ

弾丸(たま)の雨降る　濁流を
お前頼りに　乗り切って
任務(つとめ)果した　あの時は
泣いて　秣(まぐさ)を食わしたぞ

慰問ぶくろの　お守札(まもり)を
かけて戦う　この栗毛(くりげ)
ちりにまみれた　ひげ面に
なんでなつくか　顔寄せて

▲軍馬への理解を深めてもらおうと、陸軍省が公募し、その当選作を各社が競作。写真は伊藤武雄が歌ったコロムビア版。

何日君再来(ホーリー・チン・ツアイライ)
訳詞 長田恒雄
編曲 仁木他喜雄

忘れられない　あの面影よ
灯(とも)し火ゆれる　この霧のなか
二人並んで　寄り添いながら
囁きも　ほほえみも
たのしく　とけ合い
過ごした　あの日
ああ　いとし君　いつまた帰る
何日君再来？

忘れられない　あの日の頃よ
そよ風かおる　この並木道
肩をならべて　二人っきりで
よろこびも　悲しみも
うちあけ　なぐさめ
過ごした　あの日
ああ　いとし君　いつまた帰る
何日君再来？

毎日新聞社

▲李香蘭が中国語で歌ったテイチク版に対し、コロムビア版は渡辺はま子(写真)が歌って大ヒット。

▲七月一日、芝浦製作所と東京電機が合併、東京芝浦電気(現・東芝)が誕生。

東芝提供

セックス
俗諺に誤まりあり 極限の性はカラーなし

過度のセックスの後には、俗に「お天道さまが黄色く見える」と言う。しかし本当に度がすぎると「世の中、白と黒にしか見えない」そうだ。昭和一四年、実際にそれを試した男がいた。元東京市長で、男爵家の一人息子だった九重京司さん。九重さんは慶大を卒業して、当時東宝の宣伝部にいた。連日、神楽坂の料亭で陸軍のおエラ方を接待していたが、それにうんざり。なじみの芸者と精根尽きるまで励んだ。ところが──。

「太陽を見てもまったくまぶしさを感じず、白いボールのように見えるだけ。壁にかけてあった絵からも全部色が消えて白と黒だけ。四、五時間経った頃ようやく黄色味がさし、色が全部戻ったのは翌日でした」

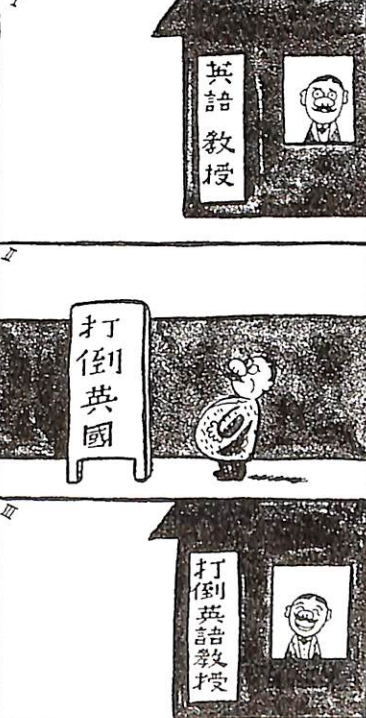
(「サンケイスポーツ」昭和五三年一二月一四日)

データ
数字が実証 新宿は行儀が悪い

警視庁が五月一〇日から一週間、〝街頭でタンやツバを吐かない運動〟を実施した。その違反者は東京市中で一万三四五七人。特に悪質だった七九人に五〇銭〜一円の罰金が科せられた。これを警察ごとに見ると、最も多いのは新宿の盛り場をかかえる四谷署で、ざっと一〇五〇〇人。次いで三河島署の一〇〇〇人余。銀座はさすがに上品で一日三〇人、全盛り場の中で一番少なかった。

(「朝日新聞」五月二八日)

この年の初もの
鉄不足の代用品 竹筋コンクリート

●**愛馬の日** 軍用馬の重要性をアピールするため、四月七日が愛馬の日に定められた。

●**薪(まき)車** 木炭車ならぬ薪を燃やして走るバスが大阪市営バスに登場。

●**集団就職列車** 四月九日、第一陣が秋田から上野着。高等小学校卒業の五八四人が上京した。

●**火炎瓶** 「ノモンハン事件」でソ連の戦車部隊用の武器として考案され、実戦で用いられた。

▲この年、松屋は袋入りの千人針セットを発売。綿布、赤い糸、針などが入っていて38銭。

世界の動き

「開戦六日目にして戦争は終わった」ドイツ軍の電撃作戦でついに第二次大戦勃発 "見殺し"にされたポーランド崩壊！

毎日新聞社

▲1939年9月1日早暁、ドイツ空軍は約1400機でポーランド軍の拠点を急襲。写真はワルシャワを爆撃する急降下爆撃機シュツーカ。

政権獲得直後から領土的野心をむき出しにしてきたナチス総統アドルフ・ヒトラーは、一九三九年九月、ポーランド侵略を決行。英仏両国の対独宣戦布告によって、第二次世界大戦が幕を開けた。しかし、英仏独三すくみの「いかさま戦争」の中で見殺しにされたポーランドは、ドイツ軍の「電撃作戦」の前に、わずか四週間で崩壊した。

一四〇〇機の航空機と一五〇万人の地上部隊

一九三九年九月一日、バルト海沿岸の国際自由都市ダンチヒ（現・グダニスク）では、むし暑い夜が明けようとしていた。午前四時四五分、"親善"を名目にダンチヒ港に停泊中のドイツ練習艦「シュレスヴィヒ・ホルシュタイン」が、突如として砲撃を開始。ダンチヒ市対岸のポーランド軍基地に、猛烈な艦砲射撃をあびせた。同時刻、国境全域でドイツ軍の侵攻が始まっていた。約一四〇〇機の航空機が、ポーランド軍の拠点を次々に破壊。一五〇万人の地上部隊がポーランド領内になだれこむ。二日後の英仏参戦によって始まる、第二次世界大戦の火ぶたが切って落とされたのである。

ARCHIVE PHOTOS アメリカンフォト・ライブラリー

▲ワルシャワ住民は、ドイツ軍によって迫害され、さらにユダヤ人は、他の住民から隔離された特別地区（ゲットー）に収容された。写真はワルシャワ・ゲットーで。

圧倒的な制空権の下、三一九五両の戦車をつらねたドイツ軍の「電撃作戦」に、緒戦からポーランド軍は敗走を重ねた。戦線視察に訪れたドイツ首相アドルフ・ヒトラー（五〇）は、開戦六日目にして「我々に残っているのは、もはやウサギ狩り以上のものではなく、軍事的には戦争は終わった」との報告を受ける。鮮やかな奇襲だった。

政治的には、ポーランド侵攻は予想された出来事だった。一九三三年に政権を奪取したヒトラーは、三五年三月に再軍備を宣言。翌三六年三月には、独仏国境の非武装地帯、ラインラントに進駐する。さらに三八年三月、オーストリアを併合し、着々と「大ドイツ帝国」の建設を進めてきた。この間、軍事的な恫喝と民族自決の建て前を振りかざすヒトラーの前に、英仏両国は「対独宥和政策」をとり続け、三八年九月にはミュンヘン会談で、チェコスロバキアのズデーテン地方割譲を容認する。ヒトラーの次なる狙いは、ドイツ本国と東プロイセンを分断する「ポーランド回廊」の回復を口実にした、ポーランド征服だったのである。

ドイツの報復をおそれ英仏は「不作為の殺人」

ミュンヘン会談の際、チェコ政府は「我々は見捨てられた」と言明した。しかし、ヒトラーがダンチヒ返還とポーランド回廊を横断する治外法権の道路と鉄道の建設を要求してきた時、ポーランドは「見捨てられる」とは思っていなかった。この年の三月三一日には英仏両国から、ポーランド独立を脅かされた場合には、「全力をあげてポーランド政府を支援する義務がある」という保障も得ていた。ヒトラーにとっても、英仏の動向は最大の気がかりだった。八月二三日には、独ソ不可侵条約を結んで万全の態勢を整えたが、八月二四日にポーランドと英仏国の間に相互援助条約が結ばれると、二六日に予定していた侵攻作戦をあわてて延期したほどである。

しかし開戦後も英仏両国の態度はさだまらなかった。なおも停戦の道をさぐるフランスは、イタリア首相ムッソリーニ（五六）が提案した五ヵ国（英・仏・独・伊・ポーランド）会議の開催をポーランドに打診する。しかし、ポーランド外相ベックの答えは、「我々に必要なのは、会議ではなく、同盟国がこの侵略に対抗すべく義務づけられている共同行動であ

毎日新聞社

◀ポーランド西部国境を越えて進撃するドイツ戦車部隊。一九三九年九月一日。

コリン・ロスが江の島で目撃した「出征兵士」と「戦死者の葬列」

佐伯 修

この年の四月、関東大震災直後の来日以来およそ一五年ぶりに日本を訪れた、ウィーン生まれのジャーナリスト、コリン・ロス（一八八五〜一九四五）は、来日以来続いた雨がやっとあがった日曜日、江の島に遊んだ。行楽客でにぎわう片瀬の海岸で、彼は、時ならぬブラスバンドの音に驚かされる。大陸へ向かう出征兵士の行進だった。

「騒々しい楽団の先導の下に、広い剣帯をつけた兵士たちは、まさに軍神のように路上を闊歩し、そのあとを兵士の郷里の婦人団体の人びとが従っていった」

半日江の島を見物して、俄雨に遭った彼は、行楽帰りの人人でごった返す駅で、今度は、別の行列と出会う。

「突然、人びとの動きはとまった。彼らはできるだけ後ずさりして場所をあけようとした。陰うつな行列がプラットホームを進んできたからだ。先頭には黒わくの中におさめられた戦死した兵士の写真を捧げた軍服姿の男が歩んだ。つづいて胸の前に小箱を捧げた他の軍人が歩んだ。（わたしはのちになってはじめてこれが遺骨の入ったつぼをおさめていることを知った）。そのあとに葬列がつづいたが、その先頭に立ったのは泣きくずれる女性であった。戦場で亡くなった兵士の遺骨が帰ってきたのだ。この日の朝、音楽を演奏し、花火を打ち上げて、出征兵士たちを送ったのとちょうど同じ場所で戦死者の葬列に会ったのは、まさに奇妙な偶然であった」

ロスは、しばらく日本に滞在した後、朝鮮、「満州国」、そして、戦火の続く中国を、日本占領地区と抗日側地区の双方で取材した。引用は、翌年刊行した『新しいアジア』（邦題『日中戦争見聞記』金森誠也、安藤勉訳）からのものである。

▲日中戦争下の内モンゴルで。（新人物往来社提供）

なお、ロスは、本来オーストリア人だが、同国は、すでにドイツに併合されており、彼も「第三帝国」国籍だった。そんな日本の同盟国人の彼が、欧州では第二次世界大戦も始まっている一九三九年秋以後、中国の抗日側地区に堂々と足を踏み入れているのは、奇妙に思えるかもしれない。

だが、実はナチス・ドイツは、日中全面戦争勃発後もしばらく蔣介石政権と友好関係を保ち、中国軍に武器を売り続けている。また個人的にも、南京陥落時、難民多数を日本軍から保護した、ナチ党員ジョン・ラーベ、国防軍から軍事顧問として中国に派遣されて抗日戦を指導、帰国後、ドイツ国内で抗日戦支援を訴えて罷免された、フォン・ファルケンハウゼン将軍のように中国に同情的な人もいたのである。

る」と、にべもなかった。

ようやく英仏がドイツに宣戦布告したのは九月三日のことである。「同盟国」の参戦を祝って、ワルシャワの英国大使館のバルコニーでは、英大使と外相ベックがシャンペンで乾杯。市民は英仏両大使館に押し寄せて歓呼の声を上げた。しかしポーランド市民の期待に反して、英仏軍はドイツ攻撃を開始しなかった。両軍が独仏国境でにらみ合ったままの、いわば「いかさま戦争」が、翌一九四〇年五月になるまで続いたのである。

ポーランドは崩壊を待つだけだった。九月一七日、独ソ不可侵条約の秘密議定書に基づいて、東方国境からソ連軍が侵入を開始。翌一八日にはポーランド政府はルーマニアに脱出する。九月二七日にはワルシャワが陥落し、二八日には独ソは正式にポーランドを分割した。

名古屋明徳短期大学講師の守屋純氏（国際関係史）は、「いかさま戦争」の内幕を次のように語る。

「すでにチェコを見殺しにしていた英仏は、当時の国際体制の主宰国としての体面から、ポーランド問題に介入せざるをえなかった。しかし、宣戦布告はしたものの、実戦はしたくないというのが本音だった。ヒトラーの報復を必要以上におそれて、みずから攻撃を開始せず、結局、ポーランドも見殺しにしたのです。ヒトラーを主犯、スターリンを共犯とするなら、英仏は『不作為の殺人』、つまり見殺しにした罪と言えるでしょう」

しかし英仏両国も大きな代償を支払うことになる。フランスはポーランド同様、ドイツの電撃作戦によってわずか六週間で降伏（四〇年六月）。またイギリス本土も、九ヵ月間にわたるドイツ空軍の猛烈な爆撃にさらされた。ようやく息をついたのは、ドイツ軍の対ソ戦が頓挫し、アメリカが本格的に戦闘に加わり始めた一九四二年頃のことである。

その後、米英ソを中心とする連合国軍は次第にドイツを追いつめていくが、その過程で、ポーランドはまたしても"見殺し"にされた。四四年八月、ソ連軍の侵攻を目前に、ワルシャワではポーランドの地下組織「国内軍」が蜂起する。しかし米英ソの積極的な援助を受けられないまま約二ヵ月間戦ったすえ、ドイツ軍に鎮圧された。後に残ったのは約二〇万人の犠牲者と徹底的に破壊された街並みだった。ポーランド解放は開戦から七年目、一九四五年五月のドイツ降伏を待たなければならなかったのである。

▶九月二八日、ワルシャワ近郊クラクフでのポーランド降伏会見。手前二人がポーランド軍将校。

bpk／デジタルハウス

往きて還らぬ

▲9月23日　岡田三郎助（70）
洋画家。明治36年内国勧業博で入賞、藤島武二と本郷洋画研究所設立。昭和12年文化勲章受章、代表作「水浴の前」。

▲8月16日　原三渓（70）
実業家。富豪・原善三郎の女婿で、横浜興信銀行頭取などを歴任。美術コレクターとしても著名。横浜に三渓園創設。

▲3月28日　田中光顕（95）
政治家。若年より勤王運動に従事し、明治10年西南戦争で活躍。後、警視総監、学習院院長など歴任。31年宮内相。

毎日新聞社

▲1月6日　初代大江美智子（28）
女優。宝塚少女歌劇を経て、昭和8年大江美智子一座結成。女剣劇のスターとして活躍したが、急性盲腸炎で急死。

▲9月23日　ジグムント・フロイト（83）
オーストリアの精神病理学者で、精神分析学の創始者。著書に無意識の精神過程を解明した名著『夢判断』など。

▲8月21日　久慈次郎（40）
野球選手。昭和9年全米チームとの対戦で主将兼捕手。実業団野球で活躍したが、試合中、頭部に球を受け死亡。

▲3月29日　立原道造（24）
詩人。繊細な抒情詩で知られ、昭和12年処女詩集『萱草に寄す』刊行。病死後に物語集『鮎の歌』など刊行される。

▲11月11日　村上華岳（51）
日本画家。大正5年文展で特選、7年国画創作協会結成。繊細で甘美な作風で知られ、代表作に「裸婦」など。

▲4月6日　ラグーザ・玉（77）
洋画家。明治一五年、後の夫、彫刻家のラグーザと渡伊。パレルモに工芸学校創設、教鞭をとる一方、画家として活躍。

▲2月18日　岡本かの子（49）
小説家。歌人としてデビュー、昭和11年「鶴は病みき」で名声を確立。ほかに『老妓抄』など。画家・岡本太郎は息子。

◀9月7日　泉鏡花（65）
明治期の代表的小説家の一人。明治二八年「夜行巡査」が評判となり、以後「湯島詣」「高野聖」「婦系図」など発表。

©MUCHA TRUST

▲7月14日　A・ミュシャ（79）
チェコの画家。作風は「ミュシャ様式」と呼ばれ、女優サラ・ベルナールのポスターで有名。「スラブ叙事詩」など。

▲3月1日　岡本綺堂（66）
小説家。『半七捕物帳』で知られ、劇作家としても活躍。代表作に戯曲『修禅寺物語』『番町皿屋敷』など。

第52号 2月24日(火)発売 定価560円
毎週火曜日発売　講談社　本体533円

1940［昭和15年］

●特集
祝宴の食事は野戦食に保存食ばかり「紀元二千六百年式典」開催／パーマ、指輪から鶏卵、醤油まで　戦争遂行のため「贅沢は敵だ!」／外相・松岡洋右の野心と蹉跌　運命の「日独伊三国同盟」締結!／ドイツ海軍が誇る奇襲攻撃の花形　Uボート、"狼群"作戦で大戦果!

●ニュース・ファイル
フォト＋日録で再現する366日…民政党の斎藤隆夫、衆議院で「反軍演説」(2月2日)／米デュポン社、ナイロン・ストッキング発売(5月15日)／トロツキー、メキシコで暗殺される(8月21日)／第五師団、北部仏印に進駐開始(9月23日)／大政翼賛会、発会(10月12日)／東京の全ダンスホール、この日限りで閉鎖(10月31日)

●人物クローズアップ
近衛文麿と大政翼賛会

●決定的瞬間
撮影されたヒトラーの"甘い生活"

●美の出会い
東京で初の正倉院展と"天平の秘宝"

●女たちの肖像…ミス・ワカナの女性上位漫才／勝者・敗者…和歌山・海草中、甲子園二連覇／証言・あの日この日…永井荷風・新美南吉／「現場」を歩く…興津、車公害に追われた「坐漁荘」／20世紀博物館…トヨタ博物館(愛知)／外から見たNIPPON…荷風を愛した周作人の「東京を懐う」●ベストセラー…「如何なる星の下に」／スターと名場面…「燃ゆる大空」が大ヒット／モノ語り'40…「国民帽」「さくら天然色フィルム」

日録20世紀専用バインダー
高級感あふれる特製バインダーを用意しました。「日録20世紀」全100巻を10冊ずつ年代順にバインダーにとじてそろえれば、「20世紀」ビジュアル百科のできあがり。10年ごとに分類するためのシールも添付。取りはずしは簡単で、整理にも便利、じょうぶな仕上がりです。あなたの書斎を飾るホーム・ライブラリーとして、永く保存してお楽しみください。バインダーは1部1300円(税別)。全国の書店でお求めください。

■既刊好評発売中(既刊51冊! 1940・1950・1960・1970年代がそろいました)

一九四〇年代

第19号1941[昭和16年]　第20号1942[昭和17年]　第21号1943[昭和18年]　第22号1944[昭和19年]　第3号1945[昭和20年]　第23号1946[昭和21年]　第24号1947[昭和22年]　第25号1948[昭和23年]　第26号1949[昭和24年]　第27号1950[昭和25年]

一九五〇年代

第36号1951[昭和26年]　第37号1952[昭和27年]　第38号1953[昭和28年]　第39号1954[昭和29年]　第40号1955[昭和30年]　第41号1956[昭和31年]　第42号1957[昭和32年]　第6号1958[昭和33年]　創刊号1959[昭和34年]　第11号1960[昭和35年]

一九六〇年代

第12号1961[昭和36年]　第13号1962[昭和37年]　第5号1963[昭和38年]　第2号1964[昭和39年]　第14号1965[昭和40年]　第15号1966[昭和41年]　第16号1967[昭和42年]　第17号1968[昭和43年]　第18号1969[昭和44年]　第4号1970[昭和45年]

一九七〇年代

第29号1971[昭和46年]　第7号1972[昭和47年]　第30号1973[昭和48年]　第31号1974[昭和49年]　第32号1975[昭和50年]　第9号1976[昭和51年]　第33号1977[昭和52年]　第34号1978[昭和53年]　第35号1979[昭和54年]　第8号1980[昭和55年]

最新刊

第46号1934[昭和9年]　第47号1935[昭和10年]　第48号1936[昭和11年]　第49号1937[昭和12年]　第50号1938[昭和13年]

■今後の刊行予定
▶第53号1981[昭和56年]3月3日発売
チャールズ、ダイアナ結婚●「残留孤児」来日●「窓ぎわのトットちゃん」●「フルムーンパス」大ヒット
▶第54号1982[昭和57年]3月10日発売
ホテル・ニュージャパン火災●三越「秘宝展」騒動●日米コンピュータ戦争●ブレジネフの"失意と死"
▶第55号1983[昭和58年]3月17日発売
東京ディズニーランド誕生!●大韓航空機撃墜事件●「荒れる教室」●ドラマ「おしん」が高視聴率獲得
▶第56号1984[昭和59年]3月24日発売
冒険家・植村直己の死●「かい人21面相」は闇に消えた!●「風の谷のナウシカ」●アフリカの飢餓
▶第57号1985[昭和60年]3月31日発売
日航ジャンボ"御巣鷹の悲劇"●エイズ、日本上陸!●「スーパーマリオ」大ブレイク!●"1億総グルメ"
▶第58号1986[昭和61年]4月7日発売
チェルノブイリ原発事故の恐怖!●三原山、大噴火●「いじめ」の卑劣!●岡田有希子自殺と若者たち

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円(税別)です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先　講談社読者サービス係　電話03-5395-3676

ミニ事典
1939年のキーワード

護国神社
日清・日露戦争以降、戦没者を祀るため全国各地に作られた招魂社を内務省が整理・統合したもの。三月一五日、原則として一道府県に一社として許可し、名称も護国神社に統一した。これで東京・九段の靖国神社を頂点とする地方分社の体系が完成、敗戦の昭和二〇年には全国五二社になった。

日本発送電会社
前年に公布された電力管理法などによって、四月一日に設立された国策会社。電力の全面的な国家統制を目的とした。略称、日発。既存会社の発電・送電設備を、現物出資の形でそのまま利用。昭和一七年には火力設備の八五、水力設備の七三、送電線の六七パーセントを保有する巨大トラストとなった。昭和二六年解体、全国九電力会社に分割された。

米穀配給統制法
価格統制をはかった昭和八年の米穀統制法に次いで、米の流通過程まで国が統制する途を開いた法律。戦時の米不足と価格高騰に対処するために制定された。四月一二日公布。一〇月一日施行。新設の日本米穀株式会社への米穀取り引きの一元化、米穀商の許可制度、配給統制の命令を骨子とした。

結核予防会
皇后からの下賜金五〇万円を資金に、結核予防対策の調査研究、予防思想の普及、模範地区の設定などを行うために組織された財団法人。五月二二日設立。総裁・秩父宮妃。結核による死亡者数はこの年、人口一〇万人に対して二一六人にもなり過去最高となった。しかも、うち五五パーセントが一九〜二九歳の青年。その撲滅は、産業上・国防上の重要課題となっていた。

▲結核絶滅を呼びかける風景(長野県会地村)。昭和10年に死因の1位になり、ふえる一方だった。
熊谷元一

新四軍
江西、湖南省を中心とした中国共産党紅軍によって一九三七年(昭和一二)に編制された抗日統一戦線部隊。国民革命軍新編第四軍の略称。軍長・葉挺。日本軍占領地区内に着々と解放区を拡大、勢力を伸ばしたが、六月一二日、これに脅威を感じた国民党軍によって湖南省・平江の基地を攻撃され、幹部を殺害された(平江事件)。国共合作に亀裂を生じた事件だった。

中央協和会
戦時下の在日朝鮮人統制組織。六月二八日創立。会長・関谷貞三郎。全国の警察署ごとに支部をおき、在日朝鮮人の同化政策を進め、その動向を監視し、神社参拝・朝鮮語禁止・戦時動員などを強要した。昭和一七年の会員数は一六四万人。この年七月に始まった朝鮮人強制連行労働者の労務統制の役割もはたした。

石炭液化
石炭から液体燃料を作る技術。昭和一二年、人造石油製造事業法が公布され、軍用機や軍用車、艦船に使用する石油類の代用として開発が急がれた。この年二月、満鉄が撫順に工場を建設、海軍燃料廠と共同で、石炭を高温高圧下におく直接水添液化法による石炭液化技術を完成、七月二二日、工業生産に成功したと新聞発表した。

ユダヤ人救済委員会
ナチスの弾圧を逃れて中国・上海に渡ってきたユダヤ人難民救済のために、上海在住ユダヤ人が結成した組織。日本海軍が警備する共同租界に約一万五〇〇〇人が滞在。日本は、外資導入と対米関係への配慮から、当初はユダヤ人保護政策をとっていたが、収容所があふれたため、八月一〇日、ユダヤ人救済委員会などに租界内への流入禁止を申し入れた。

「支那派遣軍」
従来の「北支那方面軍」と「中支那派遣軍」を統合して創設された日本軍。九月二三日、大本営が発令、八五万人を擁する大部隊となった。総司令官・西尾寿造大将、総参謀長・板垣征四郎中将。総司令部は南京におかれた。中央への統制を強め、いき詰まった中国戦線を打開、戦争終結をはかったが、はたせなかった。

体力章検定
戦時下の男子青少年の基礎的総合体力の向上をめざして、一〇月一日、厚生省が行った検定試験。独・ソの制度に学び、数え年一五〜二五歳までの男子は全員受ける義務があった。種目は一〇〇・二〇〇〇メートル走、走幅跳び、手榴弾投げなど五つで、合格者には上級・中級・初級の徽章が授与された。昭和一八年からは女子にも実施、一〇〇〇メートル走、縄跳びなどを検定種目とした。

▲体力章検定風景。写真の「運搬」は、50キロのものを50メートル運ぶ。京都の三高で。

創氏改名
朝鮮人の姓名を日本式氏名に改めること。一一月一〇日、朝鮮総督府が朝鮮民事令改正を公布、朝鮮人皇民化政策、内鮮一体促進の仕あげとして強要した。男女とも父祖の姓を名乗って変えず「同姓不婚」「同姓不娶」を伝統とする朝鮮人の民族性を否定する措置で、締め切りの翌年八月までに総戸数の約八割が届け出をすませたが、反対して自殺した人も少なくなかった。

▶「創氏改名」の申請書。写真は名前の変更で、日本式の姓に合わせて名前を変える「許可」を求める例。

援蒋ルート
英・仏・米・ソによる中国国民政府(蒋介石政権)支援のために設定された物資補給路　日中戦争初期には仏印(現・ベトナム)から昆明にいたる仏印ルート、ビルマから昆明にいたるビルマルートが主用された。太平洋戦争が始まる頃にはこれらのルートは遮断され、チベットを経由する陸路のほか、カルカッタ―昆明などの空路が開かれ、ソ連を経由する西北ルートも大量の物資を運んだ。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1939
CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター　山口至剛
表紙デザイン　山口至剛デザイン室(茂村巨利)＋渡邉裕
本文レイアウト　デザインオフィス八起き
編集協力　有エービーシープレス　株カマル社　株コミュニケーション・ハウス・ケースリー　シド・プロ　有マックス　有マライカ
飯田守　小原伸夫　鍵和田良輔　小松邦宏　張替政展　藤森雅弘
結城順　吉田忠正
●写真協力
池松均　乙咩雅一　影山光洋　影山智洋　嘉納邦子　川上今朝太郎
北出博基　熊谷元一　小柳次一　鈴木不甫　但馬憲　中島洋次郎
野原茂　平野美津子　藤本四八　堀越郁子　三石英昭　南多喜子
ARCHIVE PHOTOS　朝日新聞社　アメリカン・ライブラリー　潮書房　光人社　キーストン　共同通信社　クロマート　CORBIS・BETTMANN　国際フォト　新人物往来社　大正出版　デジタルハウス　bpk　PPS　毎日新聞社　ユニフォト・プレス
工藤写真館　新日鐵広畑製鉄所　東芝　日本コロムビア　富士重工業　松坂屋　マツダ映画社　光村印刷
茨城県近代美術館　馬の博物館　NHK放送博物館　大宅壮一文庫
川喜多記念映画文化財団　呉市企画部海事博物館推進室　群馬県立図書館調査相談室　埼玉県平和資料館　JPS　セイコー時計資料館　東京国立近代美術館　日本玩具資料館　日本近代文学館　日本相撲協会相撲博物館　日本美術家連盟　日本漫画資料館　MUCH　ATRUST

週刊YEARBOOK 日録20世紀 1930 ●双葉山七〇連勝ならず! 3月3日号
第2巻第8号 通巻51号
編集人 近藤達士 発行所 株式会社講談社 郵便番号112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
定価560円

Official Sponsor

NAGANOを支え、成功へ導く力に。
私たちは応援します、長野オリンピック、パラリンピック。

速く、正確に、美しく。感動の軌跡を記録する、そして伝えていく。富士ゼロックスは、複写機、FAX、プリンターをはじめとする多彩な機器とサービスで、長野オリンピックとパラリンピックをサポートしていきます。開幕まで、あとわずか。長野の熱い冬が、いよいよ始まります。

THE DOCUMENT COMPANY
FUJI XEROX

PARALYMPICS NAGANO'98

フィギュア・ショートトラック会場「ホワイトリング」

富士ゼロックス株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-22 電話03-3585-3211
※ XEROXとTHE DOCUMENT COMPANYは登録商標です。
http://www.fujixerox.co.jp

雑誌 23711-3/3 T1123711030568
Ⓛ 2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社